YAMAHA

Marine Jet

GP1300R

取扱説明書

本書をよくお読みになってから
ご使用ください。

058439

JJU13940

はじめに

ヤマハマリンジェットをお買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書ではマリンジェットの正しい取り扱い方法と簡単な点検整備について説明してあります。

取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。

マリンジェットの使い方を十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みください。またマリンジェットに乗るときは本書を携帯し安全快適なマリンライフをお楽しみください。

JJU13950

お知らせ

本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠　安全に係る注意情報を意味しています。

⚠警　告　取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

⚠注　意　取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　点　正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様の変更などにより図や内容が製品と一部異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書は大切に保管し、マリンジェットの転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。
- 整備手帳には保証書とともに定期点検整備の方式、および定期点検記録簿が入っております。マリンジェットの維持管理にご活用ください。
- 保証書はよくお読みいただき裏面のヤマハ取扱店名等をご確認のうえ大切に保存してください。

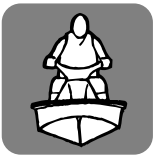
ご不明な点や不具合なところがありましたらお早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談、またはお申しつけください。ヤマハ取扱店ではお客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

JJU13960

目次

ご使用前に必ず知っておいていただきたいこと 1

艇体各部の名称と操作 2



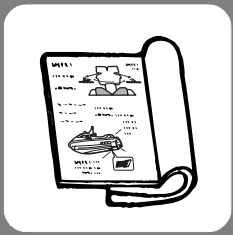
実際に乗ってみましょう 3

整備と調整 4

万一トラブルが起こったら 5

附録 6

よくお読みになってからご使用ください。



JJU13970

ご使用前に必ず知っておいていただきたいこと

1

製造番号の記録..... 1-1
艇体番号..... 1-1
艇体識別番号..... 1-1
エンジン番号..... 1-1
重要なラベル..... 1-2
ラベルの位置..... 1-2
警告ラベル..... 1-3
その他のラベル..... 1-5
ご自身と同乗者、他の船舶、遊泳者等に関する安全情報..... 1-6
マリンジェットの使用について 1-6
航走について..... 1-7
操船について..... 1-8
他の注意事項について..... 1-10
マリンジェットの特性について 1-10
ボートの安全規則..... 1-12

船舶検査..... 1-12

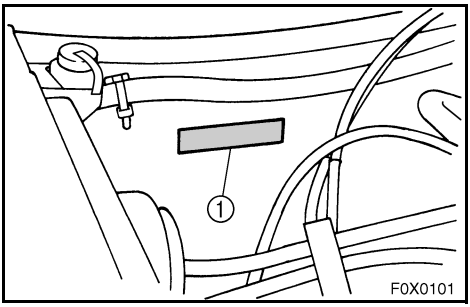
法定安全備品..... 1-13

マリンジェットの航行区域 1-14
一般的に使用するマリンジェットの航行区域..... 1-14
母船に搭載して使用するマリンジェットの航行区域 1-15
環境、周辺の人々との調和のために..... 1-16
周辺の人々のために..... 1-16
いつまでもきれいな海で乗るために..... 1-17

JJU13980

製造番号の記録

ヤマハ取扱店にスペア部品を注文するときや万一盗難にあったときのために艇体番号とエンジン番号を控えておくことをお奨めします。

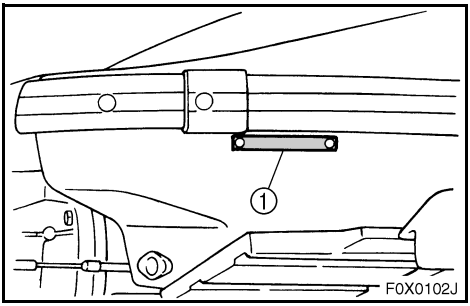


JJU13990

艇体番号

PRI-I.D
MODEL F1G
YAMAHA MOTOR MANUFACTURING CORPORATION OF AMERICA.
ASSEMBLED IN U.S.A. FROM AMERICAN AND JAPANESE COMPONENTS.
ASSEMBLÉ AUX ÉTATS-UNIS DE PIÈCES AMÉRICAINES ET JAPONAISES.

艇体番号はエンジンルームの内壁に貼り付けられたラベル ① に記載されています。

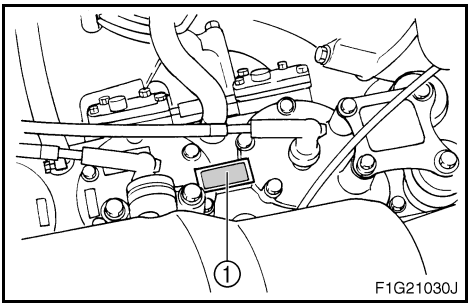


JJU19720

艇体識別番号

艇体識別番号（HIN）は艇体の右舷側に貼り付けられたラベル①に記載されています。

US-YAM□□□□□□□□□□



JJU19733

エンジン番号

YAMAHA
YAMAHA MOTOR CO., LTD.
MADE IN JAPAN
PAYS D'ORIGINE JAPON

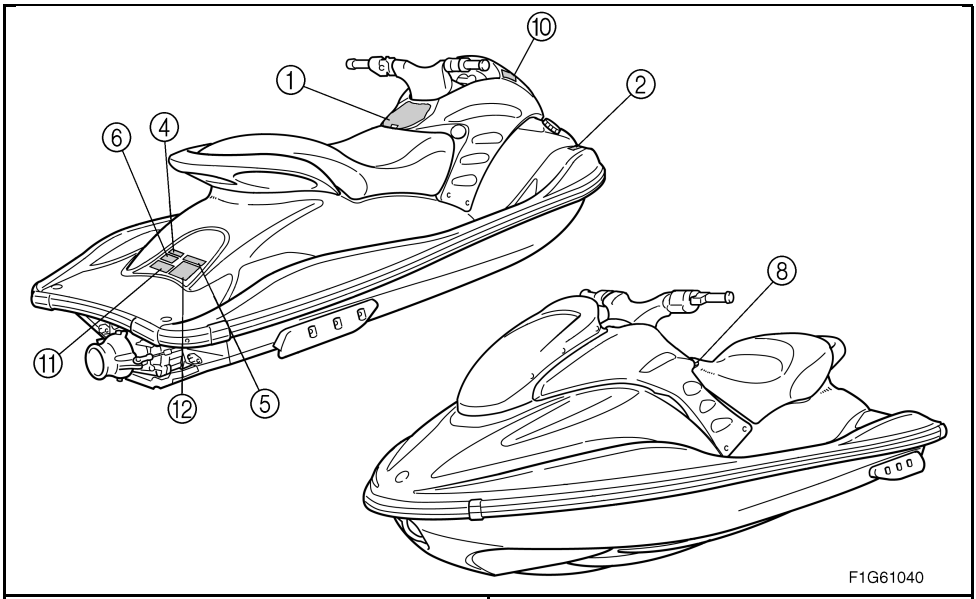
エンジン番号はエンジンユニットに貼り付けられたラベル ① に記載されています。

JJU14010

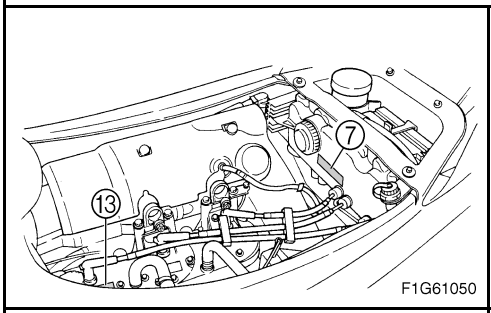
重要なラベル

JJU14020

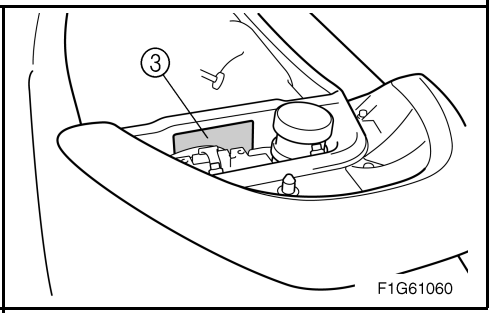
ラベルの位置



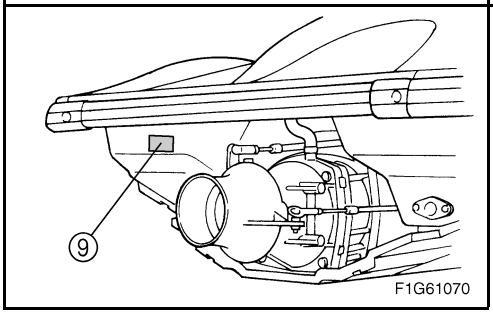
F1G61040



F1G61050



F1G61060



F1G61070

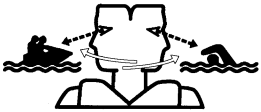
JJU14030

警告ラベル

①

⚠ 警　告

マリンジェットは衝突した場合、一般船舶に比べて死傷する率が高くなります。
次の事項を守り、衝突防止に努めてください。



- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等の見張りを怠らないでください。
  視界が制限されたり、妨げられたりする状況には警戒してください。
- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度や距離を保って航走してください。
  - ・マリンジェットや船舶等の背後を追走しないでください。
  - ・周囲のものに水飛沫等が掛かるまで接近しないでください。
  - ・急旋回等、周囲の操船者が予測困難な航走は行わないでください。
  - ・浅瀬や暗礁等のある水域では使用しないでください。
- 早めに行動を起し衝突防止に努めてください。マリンジェットも一般船舶同様にブレーキ装置は有りません。
- 障害物を避けるときはスロットルを戻さないでください。進路を変えるためにはスロットル操作が必要です。航走前には、スロットルとステアリングが正しく作動することを常に確認してください。
- 航海法規、県条例、地域規制等を必ず守ってください。

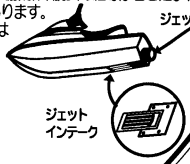
詳しくは取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警　告

マリンジェットを安全にお使いいただくために、次の事項を必ずお守りください。

- 乗船者はJCI(日本小型船舶検査機構)認定の救命胴衣を必ず着用してください。
- 身体を保護できる衣服を着用してください。落水による水面への衝撃やジェットノズルの近くで強い噴流を受けた場合、身体開口部に大きな怪我を負う恐れがあります。通常の水着では下半身開口部の十分な保護にはなりません。身体保護のできるウエットスーツボトム等を必ず着用してください(取扱説明書を参照)。シューズ、手袋、ゴーグル(保護眼鏡)等も合わせて着用ください。
- 操船には小型船舶操縦士免許が必要です。海技免状を持って乗船してください。免許のない人や子供と乗船する場合には船長が十分に気をくばりましょう。
- 操船者が落水したとき直ちにエンジンが停止するようカールコードを手首に取り付け、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。下船後は子供等が扱えないようカールコードを船体から外してください。

- 自分の操船技量をよく知り、果敢な航走は避けてください。操船に支障が出たり、落水や衝突する率が増えます。マリンジェットは高性能な船です。おもちゃではありません。急旋回や波等のジャンプは背骨/背髄の損傷(麻痺)、顔の損傷、足、くるぶし等の骨折要因となる恐れがあります。ジャンプは行わないでください。
- マリンジェットの背後に人が居るときはスロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。ジェットノズルから排出される水や異物で怪我をする恐れがあります。
- エンジン運転中はジェットインテーク(吸水口)に近づかないでください。長髪、緩んだ衣服、救命胴衣の紐等が巻き込まれ、怪我をしたり、溺れる恐れがあります。
- 飲酒や薬物の服用後は絶対に乗船しないでください。



F0X-641B1-20

取扱説明書をよく読んでからご使用ください。

②

⚠ 警　告

ガソリンは高い可燃性と爆発性があります。火災や爆発は死傷の要因となります。
給油の際はエンジンを停止し、火気のない換気のよい場所で行なってください。
喫煙は厳禁です。ガソリンはこぼさないように扱い、こぼしたときは直ちに拭き取ってください。
エンジン始動前には全てのシート、船首の物入れを外してエンジンルームの換気を行い、
燃料気化ガスを排出してください。燃料漏れや電装配線の緩みがある場合は
エンジンを始動しないでください。

無鉛レギュラーガソリン専用

YAMAHA

F0V-6415B-20

③

⚠ 警　告

ブリーザホースはバッテリへ
確実に取り付けてください。
取り付けていないと火災や
爆発の恐れがあります。

YAMAHA

F0V-641DB-20

④

⚠ 警　告

クリートやグリップ類を使って船体を吊り上げないでください。船体が落下し、
大きな怪我を負う恐れがあります。

(F1G-641E2-20)

⑤

⚠ 警　告

- ジェットノズルからの強い噴流が下半身開口部に当たると、大きな怪我を負う恐れがあります。
- 身体保護のできるウエットスーツ等を必ず着用してください。
- 操船者がスロットル操作をしているときは乗り込まないでください。

(F1G-641E2-20)

⑥

⚠ 警　告

このマリンジェットには触媒装置が装備されています。
火傷をしないよう、気をつけてください。
- エンジン停止後もマフラーに触らないでください。
  触媒は非常に高温になっています。
- 陸上では後に人がいるときにエンジンを始動しないでください。
  排気口から蒸気や熱水が噴出する恐れがあります。
- オーバヒート警告灯やインジケータが点滅し、ブザーが鳴り始めたときは低速で岸に戻ってください。 そのまま航走を続けるとエンジンが停止し、温度が下がるまで再始動はできません。
- 陸上では4,000 r/min 以上でエンジンを運転しないでください。

(F1G-641E2-20)

⑦

⚠ 警 告

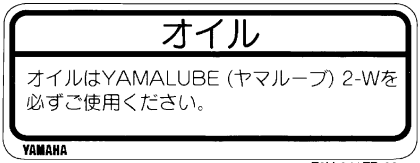
運転中は電装品には触らないでください。

YAMAHA　　63N-83623-00

JJU14050

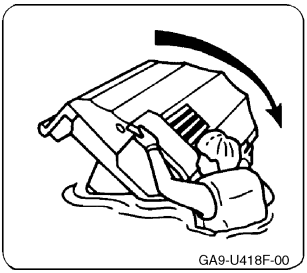
その他のラベル

⑧



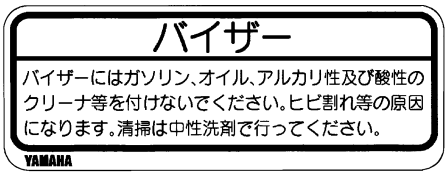
F0V-641FB-20

⑨



GA9-U418F-00

⑩



F0X-641FD-20

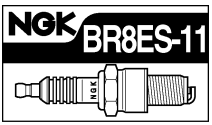
⑪

(F1G-641E2-20)

⑫

(F1G-641E2-20)

⑬



(66V-42791-00)

JJU18691

⚠ ご自身と同乗者、他の船舶、遊泳者等に関する安全情報

マリンジェットを安全にご使用いただくためには、適切な操船技術を身に付けるだけでなく、操船者の良識と優れた判断力やマリンジェット特有の特性に関する知識が必要です。

操船者は下記の内容を十分理解してからご使用ください。

- ご使用になる前には、本取扱説明書、全ての警告ラベルと注意ラベルを必ずお読みいただき、マリンジェットの取り扱い方法について十分理解してください。
- お客様のマリンジェットを他人に使用させる場合は、前もって本取扱説明書、全ての警告ラベルと注意ラベルを必ず読ませてください。

操船者には次のような遵守事項があります。

- 酒酔い操縦等の禁止
  飲酒等により、正常な判断ができない状態での操縦は禁止されています。
- 自己操縦の義務
  マリンジェットは全ての海域で免許所有者以外が直接操縦することは禁止されています。
- 危険操縦の禁止
  海水浴場など、遊泳者のいる付近で疾走したり急旋回する等の危険な操縦は禁止されています。
- 救命胴衣の着用義務
  マリンジェットの全ての乗船者は救命胴衣の着用が義務付けられています。

上記遵守事項に違反し、一定基準に達すると、免許停止または戒告の行政処分を受ける場合があります。

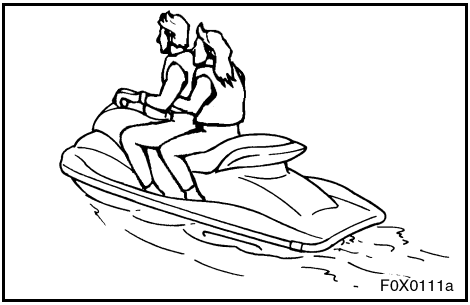
JJU16421

マリンジェットの使用について

- 平成15年6月1日より「船舶職員法」を一部改正した「船舶職員及び小型船舶操縦者法」が施行となり、ボート・ヨット用（小型船舶）免許と水上オートバイ用（特殊小型船舶）免許が区別されました。マリンジェットは特殊小型船舶に分類されます。これにより、マリンジェットの操縦には特殊小型船舶操縦士の資格が必要となります（1級・2級小型船舶操縦士免許のみでは操縦できません）。ただし従来の資格による操縦区分は、改正後もそのまま保護されます。そのため改正前に海技免許を取得された方は、5級小型船舶操縦士以上（湖川小馬力5級免許は不可）の資格があれば従来通りマリンジェットを操縦できます。
- 免許所有者以外が操縦することは禁止されています。免許所有者は操縦資格を証明できる様に常に小型船舶操縦免許証（海技免状）を携帯してください。
- マリンジェットを使用する水域の船舶関連法規、条例等を必ず確認し、その指示に従ってください。
- 日本小型船舶検査機構（JCI）により交付された船舶検査証書、船舶検査手帳は必ず船内に備え、船舶検査済票は両舷の周囲から見えやすい位置に貼り付けてください。

- このマリンジェットは操船者の他に同乗者 1 名の合計 2 名までを定員として乗船できますが、総重量が最大積載重量を越えないようにしてください。

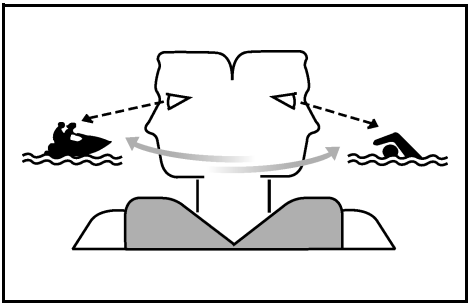
最大積載重量：160 kg（操船者、同乗者および、荷物の重量を含む） 定員：2 名



- 同乗者を乗せた操船はより高度な技量が必要とされますので、1 人での操船に十分に慣れるまでは同乗者を乗せないでください。
  高技術を要する操船を試みる前に、マリンジェットの航走特性に十分に慣れてください。
- 免許のない人や子供を乗船させる場合には操船者が十分に気を付けてください。

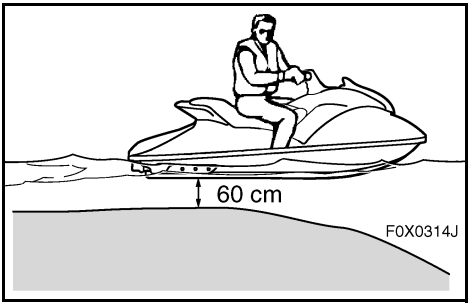
JJU14080

航走について



- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等の見張りを怠らないでください。視界が制限されたり、妨げられたりする状況には警戒してください。
- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度や距離を保って航走してください。
- マリンジェットや船舶等の背後を追走しないでください。
- 周囲のものに水飛沫等が掛かるまで接近しないでください。
- 急旋回等、周囲の操船者が予測困難な航走は行なわないでください。
- 浅瀬や暗礁等のある水域では使用しないでください。
- 自分の操船技量をよく知り、果敢な航走は避けてください。操船に支障がでたり、落水や衝突する率が増えます。
- マリンジェットは高性能な船です。おもちゃではありません。急旋回や波等のジャンプは背骨 / 脊髄の損傷（麻痺）、顔の損傷、足、くるぶし等の骨折要因となる恐れがあります。ジャンプは行なわないでください。

- 荒波、悪天候、視界不良のときなどには航走しないでください。重大な海難事故につながる恐れがあります。出航前には天気予報を確認し、気象の変化に留意してください。
- 他のマリンスポーツと同様、単独での行動はやめましょう。ご自身が泳ぎ着ける距離を越えて陸岸から沖合いに出る場合は、他の船舶等と同行しましょう。これはマリンスポーツを行なう場合の良識です！
- 水深が 60 cm 以下のところでは絶対に使用しないでください。航走中や落水時に水中の障害物に接触して負傷する恐れがあります。

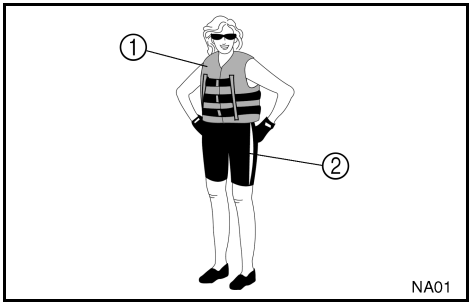


- 夜間の航行は法令によりできません。

JJU15571

操船について

- 乗船者は救命胴衣の着用が義務付けられています。日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣を必ず着用してください。
- 身体を保護できる衣服を着用してください。落水による水面への衝撃やジェットノズル付近で強い噴流を受けた場合、身体開口部に大きな怪我を負う恐れがあります。通常の水着では下半身開口部の十分な保護になりません。身体保護のできるウエットスーツボトム等を必ず着用してください。厚くしっかりした丈夫な布でデニムのように体にぴったりした衣類がそれに相当します。しかし、自転車競技用の短パンに使われているスパンデックスのような織物は効果が有りません。

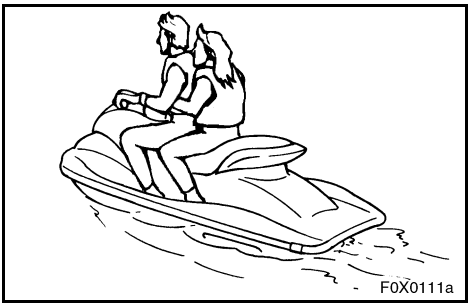


① JCI 認定の救命胴衣
② ウエットスーツボトム

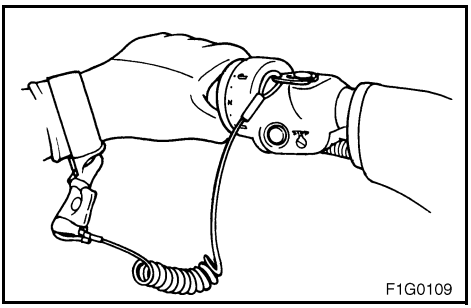
- 風や水飛沫、太陽の水面反射光等は航走中の視野を狭めます。そのようなときにはゴーグル、サングラス等の保護眼鏡を着用することを推奨いたします。
  眼鏡の拘束紐には眼鏡が水没したときに水に浮くようなものも有ります。
  シューズ、手袋等も併せて着用してください。

- ヘルメットの着用については次のことを考慮した上で判断してください。
  ヘルメットを着用することで落水、衝突等の事故から頭部を保護できる場合もありますが、一方では視野が制限されたり、周囲の音が聞こえにくくなったり、ヘルメットの重みで疲れやすくなったりすることもあり、事故につながる恐れもあります。また、航走中に落水したときにはヘルメットの中に水が入り呼吸ができなくなったり、首などに傷害等を受けることもあります。
  ヘルメットの着用はマリンジェットの使用状況等を考慮して判断してください。競技等に参加される場合は、開催者が認定したヘルメットを着用してください。
- 飲酒や薬物の服用後は絶対に乗船しないでください。

- 安全で適正な機能維持のために、ご使用前に 3-6 ページの「使用前の点検」を必ず実行してください。
- 航走中、乗船者は必ず両足をフットウェルフロアに置いてください。足を浮かせると身体のバランスを失ったり、マリンジェット周辺の障害物等に足を接触させる恐れがあります。両足がフットウェルフロアに届かないような子供は乗せないでください。
- 同乗者は必ず前の人にしっかりと掴まってください。



- 妊娠中や健康状態が良くない方は乗船する前に医師に相談してください。
- マリンジェットの改造はしないでください。改造行為は安全性および信頼性を低下させ、法令違反となることがあります。
- 操船者が落水したときただちにエンジンが停止するようカールコードを手首に取り付け、ハンドルバー等に絡まらないようにしてください。下船後は子供等が操作できないようカールコードを艇体から外してください。



- 遊泳者等には常に注意を払ってください。また、遊泳水域には近づかないようにしてください。遊泳者はマリンジェットからは見えにくく、誤って衝突する恐れがあります。
- 周囲の船舶から衝突されないように、常に自分の方から周囲を監視するようにしてください。周囲の船舶の操船者がマリンジェットに気がついていない場合や気づいても突然予期せぬ航走をした場合は、衝突する恐れがあります。
- 常に周囲の船舶等との間には安全な距離を保ってください。また、周囲の船舶の水上スキーロープや釣り糸にも注意してください。
  航海法規を守り、特に旋回するときは後方をよく確認してください。

JJU20260

他の注意事項について

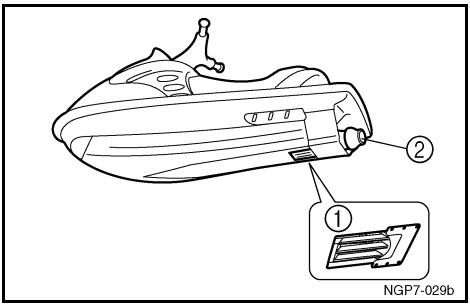
- 閉め切った場所でエンジンを始動させたり、短時間であっても運転することは絶対にしないでください。排気ガスは一酸化炭素を含み、中毒を起す恐れがあります。マリンジェットは開放された場所でご使用ください。
- 陸上では、船尾付近に人が居るときはエンジンを始動しないでください。排気口から熱水や蒸気が噴き出て、火傷をする恐れがあります。
- 熱いマフラに触ると火傷をする恐れがあります。エンジン運転中、停止後もマフラには触らないでください。触媒はエンジン停止後も熱くなります。

JJU20480

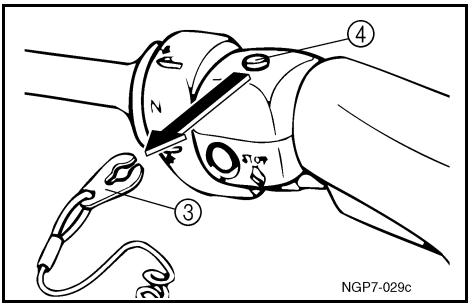
マリンジェットの特性について

- マリンジェットは推進力によって旋回します。スロットルレバーを完全に放すと推進力は最小になります。滑走中にスロットルを戻すと、旋回能力が急速に低下します。一度エンジンの回転が落ちてしまうと、いくらハンドル操作を行なっても、再びスロットルを開くまで、または艇がトローリング速度に到達するまで、旋回はできません。旋回方法に十分に慣れるまでは障害物等の無い広い場所で練習してください。
  このモデルはオフ・スロットル・ステアリング・システム（OTS）を備えたヤマハ・エンジン・マネージメント・システム（YEMS）を採用しています。OTS はプレーニング状態でスロットルを放してステアリングを切ったときに作動し、マリンジェットの減速中にも若干の推進力を与え続けることで旋回性の補助をします。旋回中にスロットルを開ければさらに急旋回をすることができます。OTS はエンジン停止状態またはプレーニングスピード以下では動作しません。
- マリンジェットは水の噴流によって推進力を得ます。ジェットポンプはエンジンに直結されていますので、エンジン運転中は常に推進力が発生します。ニュートラルは有りませんので、マリンジェットは僅かに前進します。

- エンジン運転中はジェットインテーク（吸水口）① に近づかないでください。長髪、緩んだ衣服、身体救命胴衣の紐等が巻き込まれ、怪我をしたり、溺れる恐れがあります。
- ジェットノズル ② の中には絶対に物を入れないでください。ジェットポンプの回転部品と接触し、重大な事故につながる恐れがあります。



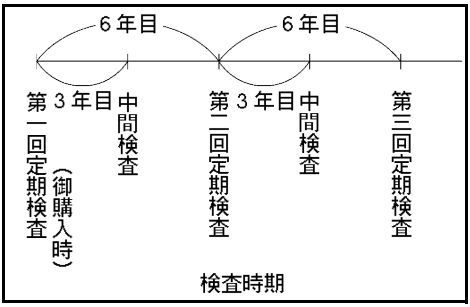
- ジェットインテークにはゴミや海藻が吸い込まれて付着することがあります。これらを取り除くときは必ずエンジンを停止させ、緊急エンジン停止スイッチ ④ からロックプレート ③ を取り外してください。



JJU14130

ボートの安全規則

ヤマハマリンジェットは法律上においては動力船とみなされます。マリンジェットは使用水域の法令や規則等に必ず従って使用してください。



JJU14140

船舶検査

船舶安全法により船の総トン数が20トン未満の船舶は日本小型船舶検査機構（JCI）の行なう検査を受け、所定の物を交付された後でなければ航行できません。この検査には初回、その後6年毎に行なう「定期検査」と定期検査後3年毎に行なう「中間検査」などがあります。

お買い上げのヤマハ取扱店にご相談いただき、必ずこの検査を受けてからご使用ください。

区　分	備品の名称	数量	備　　考
救命設備	救命胴衣 （JCI認定品） 小型船舶信号紅炎セット	1～2 1	乗船者は必ず着用してください。 推奨品：国際化工社製SF-2 部品番号：90794-28056
航海用具	時計 音響信号器具	1 1	操船者の腕時計で代用できます。 笛で代用できます。
係船設備	係船ロープ	2	

JJU18540

法定安全備品

船舶安全法によりマリンジェットの搭載備品の種類と数量が定められています。ご使用になる前には、左記の法定安全備品が搭載されていることを確認してください。

特に小型船舶用信号紅炎セットは使用説明書をよく読み、硬い鋭利なものと混載しないよう専用のケースに入れて筒状の物入れに収納してください。

要　点

航走中、物入れ内で信号紅炎セットが動き回らない様にしてください。袋入りの附属工具セット等を信号紅炎セットの奥に入れる事をお勧めします。

詳しくはお買い上げのヤマハ取扱店へお問い合わせください。

JJU14160

マリンジェットの航行区域

マリンジェットの航行区域は、水上オートバイ特殊基準により次のように規制されております。

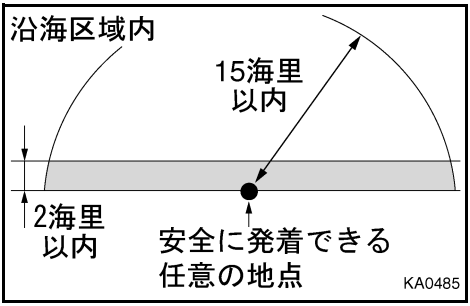
- 一般的に使用するマリンジェットの場合。
- 母船に搭載して使用するマリンジェットの場合。

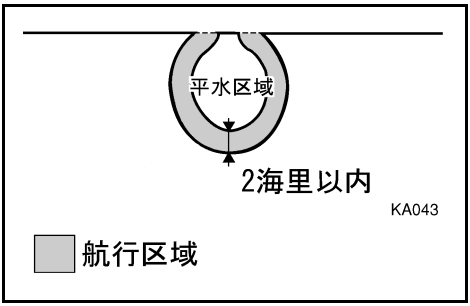
それぞれに関して次のように航行区域を規制してありますので十分注意して使用ください。

JJU14170

一般的に使用するマリンジェットの航行区域

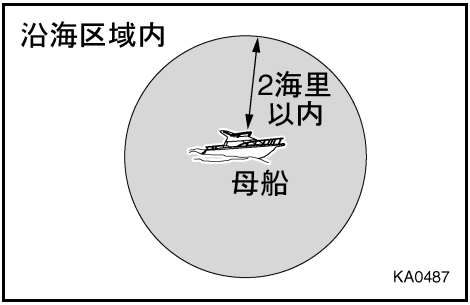
- 沿海区域
  マリンジェットが安全に発着できる任意の地点から 15 海里（約 28 km）以内の水域のうち、当該地点における海岸から 2 海里（約 3.7 km）以内の水域に限定されます。
  図のように航行区域が制限されます。
- 平水区域
  平水区域の陸岸から 2 海里（約 3.7 km）以内の水域に限定されます。
  図のように航行区域が制限されます。

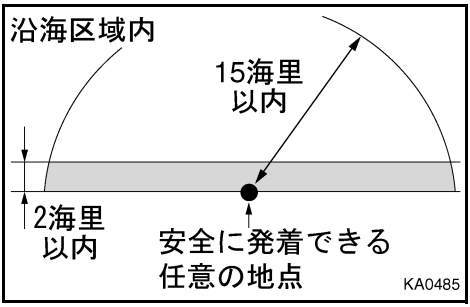


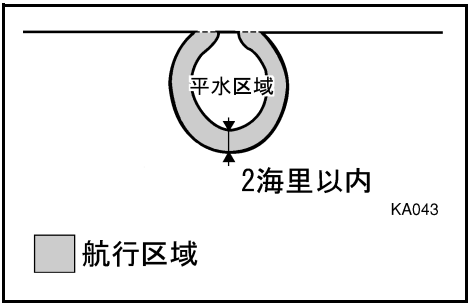


要　点

- 安全に発着できない海岸とは海岸線に岩、崖、護岸（テトラポッドや防波堤）、隠頭岩（潮の満ち引きにより見え隠れする岩、見えないが水深が十分にない岩）などがある海岸です。
- 平水区域とは沿海区域に含まれ、船舶安全法施行規則第 1 条第 6 項で定められた湖、河川、湾など比較的波の静かな水域です。
- 航行区域について詳しくは、船舶検査証書にて確認してください。





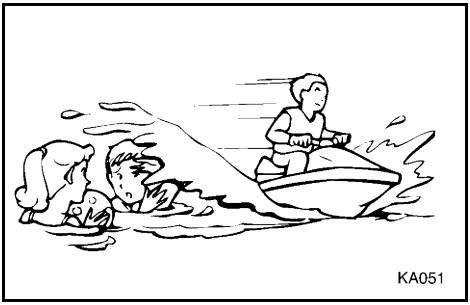


JJU14190

母船に搭載して使用するマリンジェットの航行区域

- 沿海区域内で母船を中心に半径 2 海里(約 3.7 km) 以内の水域
- 沿海区域内でマリンジェットが安全に発着できる任意の地点から 15 海里(約 28 km) 以内の水域のうち、当該地点における海岸から 2 海里 (約 3.7 km) 以内の水域
- 平水区域内の水域のうち陸岸から 2 海里 (約 3.7 km) 以内の水域

図のように航行区域が制限されます。

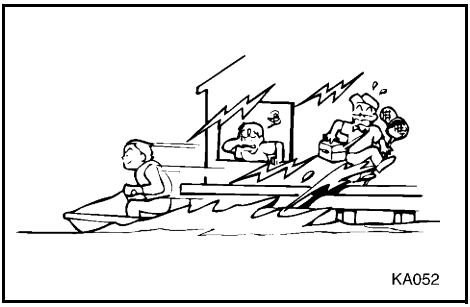


JJU14200

環境、周辺の人々との調和のために

海は共有の場、いろいろな楽しみを求めてたくさんの方々が利用する場所です。また、この海を生活の糧とする方々も多数います。

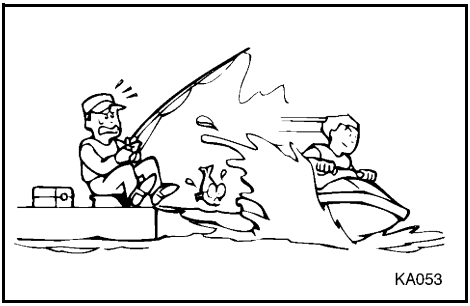
この共有の財産をいつまでも楽しく使うために次の事を守りましょう。



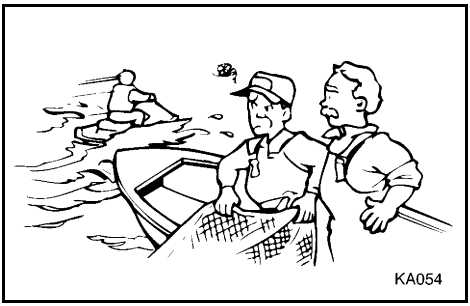
JJU14210

周辺の人々のために

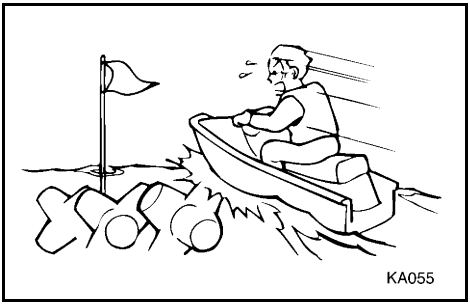
- 遊泳者のいる近くでは乗らないでください。
- 人家の近くでは乗らないでください。
- 他人に迷惑を掛ける騒音は出さないでください。



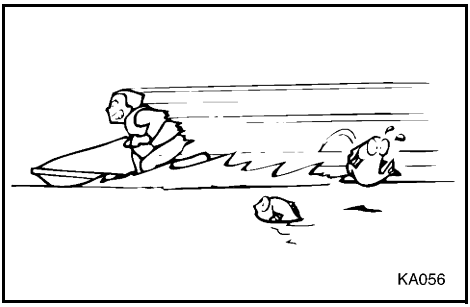
- 釣り船、釣り人の迷惑にならないよう注意してください。



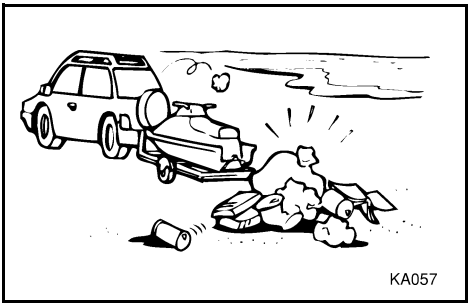
- 航走中の周囲の船舶に近づかないでください。
- 漁場への乗り入れ、操業中の漁船に近づかないでください。



● 乗り入れ禁止区域には入らないでください。



● 指定区域内では制限速度を守ってください。

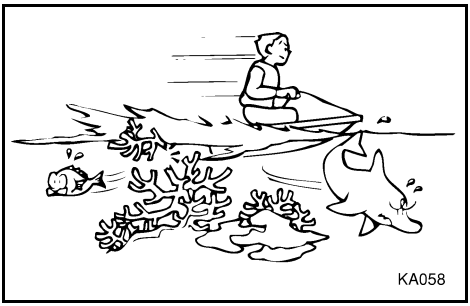


JJU14220

いつまでもきれいな海で乗るために

● 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。（不法投棄は絶対しないでください。）

● 燃料やオイルで海岸や水面を汚さないようにしましょう。



● 自然の景観や生物を大切にしましょう。

JJU14230

艇体各部の名称と操作

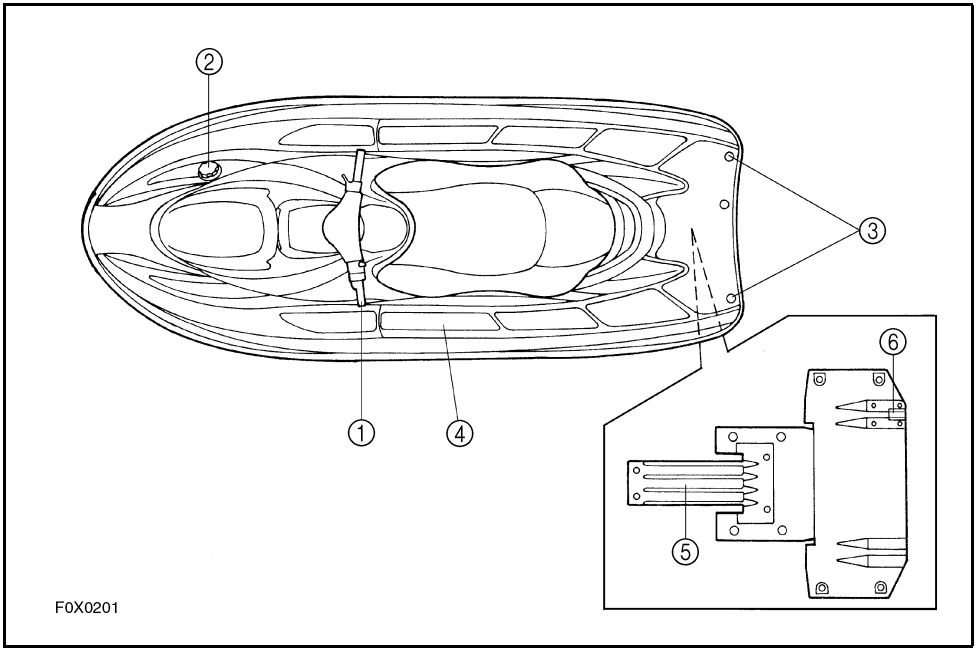
艇体各部の名称..... 2-1

艇体各部の操作と機能 2-5
シート..... 2-5
フード..... 2-6
燃料タンクキャップ..... 2-6
オイルタンクキャップ..... 2-6
エンジン停止スイッチ..... 2-7
緊急エンジン停止スイッチ 2-7
スロットルレバー..... 2-7
エンジン始動スイッチ..... 2-8
冷却水点検孔..... 2-8
ステアリング..... 2-9
クイック・シフト・トリム・システム
(QSTS)..... 2-10
ハンドグリップ..... 2-11
オーバヒート警告装置..... 2-12
排気温度警告装置..... 2-13
ヤマハ・エンジン・マネージメント・
システム（YEMS)..... 2-15
マルチファンクションメータ 2-15
タコメータ..... 2-16
スピードメータ..... 2-16
燃料計..... 2-17
アワーメータ／ボルトメータ 2-17
燃料残量警告..... 2-18
オイル残量警告..... 2-18
チェックエンジン警告..... 2-18
オーバヒート警告..... 2-19
排気温度警告..... 2-19
物入れ..... 2-20
ヤマハ・アジャスタブル・スポンソン
(YAS)..... 2-21

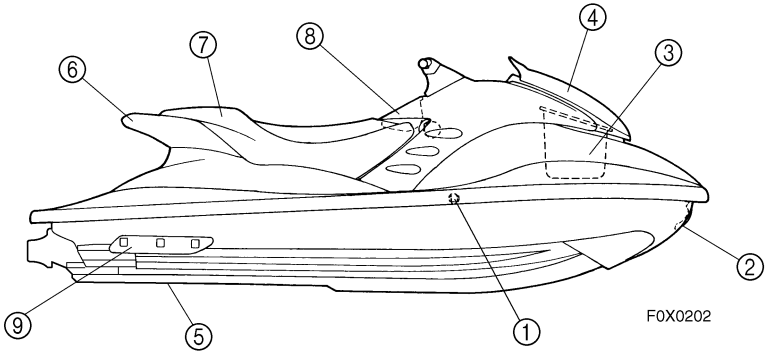
2

JJU14240

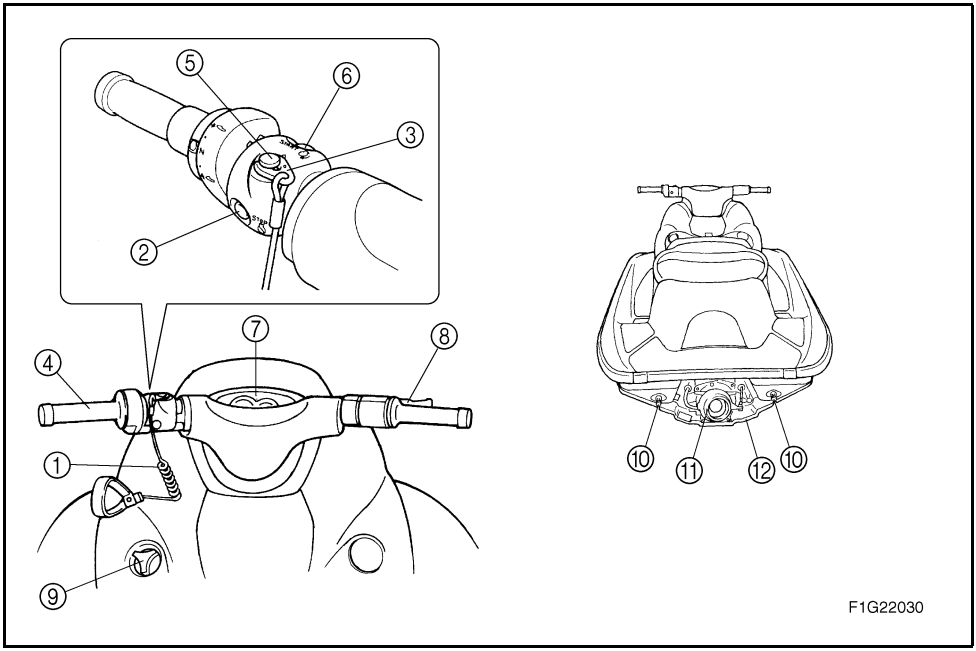
艇体各部の名称



① ステアリングハンドル
ジェットノズルの向きを変え、マリンジェットの進行方向を調節します。
② 燃料タンクキャップ
③ ロープホール
④ フットウェルフロア
両足を置きマリンジェットと乗船者の安定を図ります。
⑤ 吸水口格子
ジェットポンプに異物が入るのを防ぎます。
⑥ 速度センサ



① 冷却水点検孔
エンジンへの冷却水供給状態が点検できます。
② バウアイ
マリンジェットの運搬、係留、緊急時の曳航に使います。
③ 船首物入れ
④ フード
⑤ ジェットインテーク（吸水口）
⑥ ハンドグリップ
⑦ シート
⑧ グローブボックス
⑨ ヤマハ・アジャスタブル・スポンソン（YAS）



① カールコード
操船者の手首に装着し、操船者が落水したときエンジンを停止します。

② エンジン停止スイッチ
赤ボタンを押すとエンジンが停止します。

③ ロックプレート
緊急エンジン停止スイッチに差し込んでエンジンの始動を可能にします。
これを取り外すことでエンジンを停止させたり、不意のエンジン始動やマリンジェットの無断使用を防ぎます。

④ クイック・シフト・トリム・システム（QSTS）コントローラ
マリンジェットの航走時のトリム角度を変えるときに使います。

⑤ 緊急エンジン停止スイッチ
ロックプレートを外すとエンジンが停止し、始動できない状態になります。

⑥ エンジン始動スイッチ
緑ボタンを押してエンジンを始動します。

⑦ マルチファンクションインフォメーションセンタ
航走速度、その他のマリンジェットの状況を表示します。

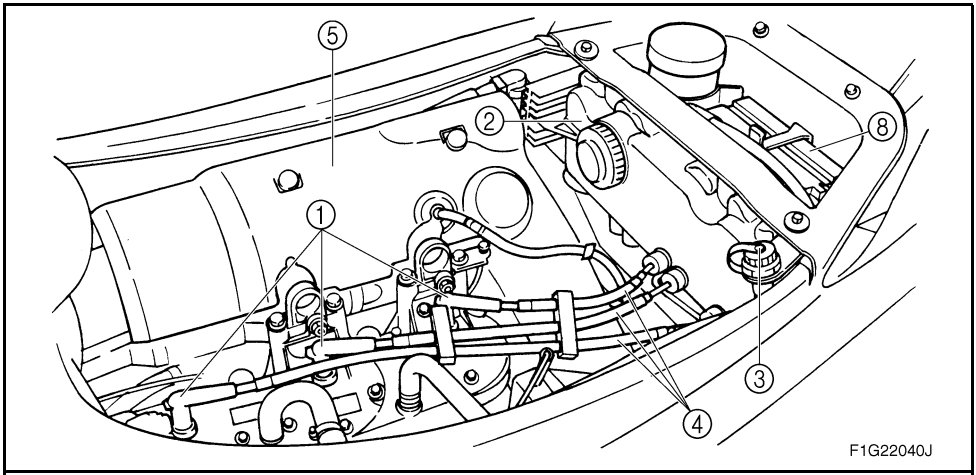
⑧ スロットルレバー
加速・減速に使います。

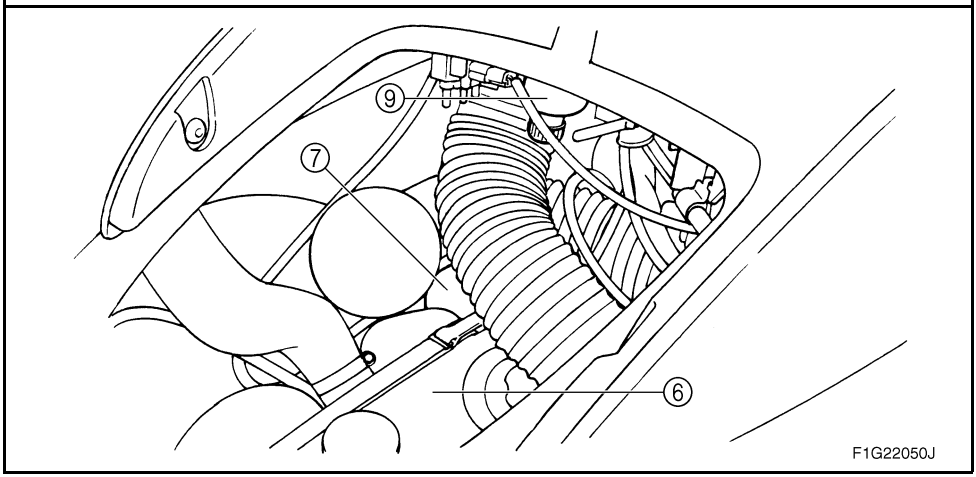
⑨ オイルタンクキャップ

⑩ ドレンプラグ
陸上での船内ビルジの排出に使用します。

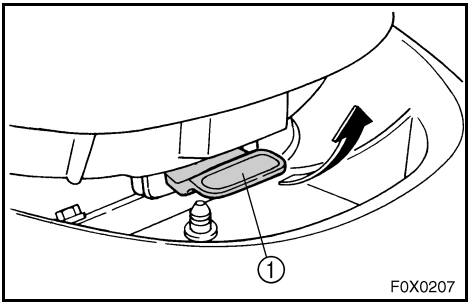
⑪ ジェットノズル
ステアリングハンドル、QSTS の動きと連動し、ジェット噴流の向きを変えます。

⑫ ライドプレート





① スパークプラグ / キャップ
② 電装ボックス
主な電装部品を水から保護します。
③ 水洗ホースコネクタ
エンジン冷却水の通路洗浄に使用します。
④ ハイテンションコード
⑤ マフラ
⑥ 燃料タンク
⑦ オイルタンク
⑧ バッテリ
⑨ 水分離器



JJU14250

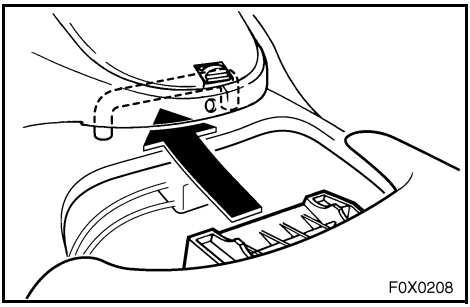
艇体各部の操作と機能

JJU15580

シート

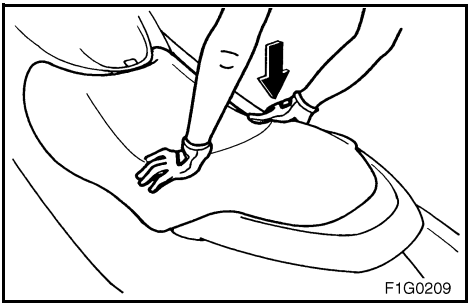
取り外し：

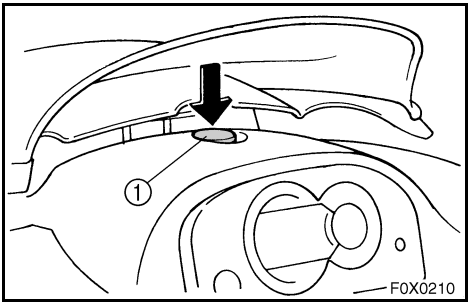
シートロックレバー ① を引き上げ、シート後部を持ち上げながら引いて外します。



取り付け：

シート前部の突起部を艇体側のステーの下側に嵌めます。シートの後部を押し下げシートを確実に固定します。

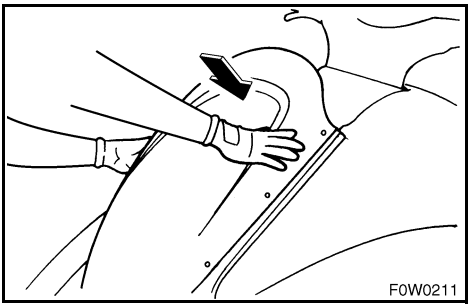




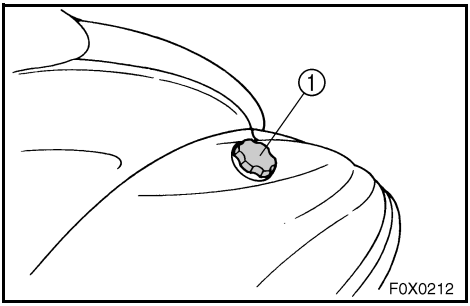
JJU15590

フード

フードを開けるときは、ロックボタン ①を押し、フードの後部を持ち上げます。



閉めるときは、フードの後部を押し下げ確実に固定します。

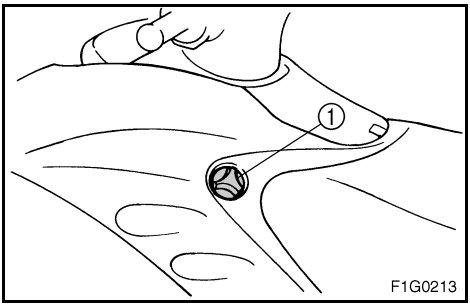


JJU14290

燃料タンクキャップ

燃料タンクキャップ ① を外すときはキャップを反時計方向に回します。

マリンジェットを使用する前には燃料タンクキャップを確実に締めてください。

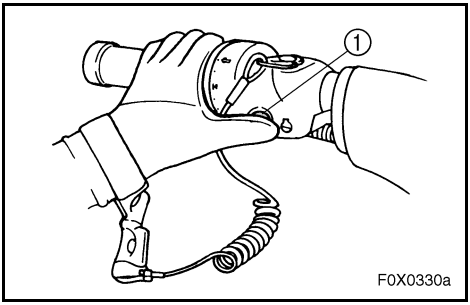


JJU15611

オイルタンクキャップ

オイルタンクキャップ ① を外すときは、キャップを反時計方向に回します。

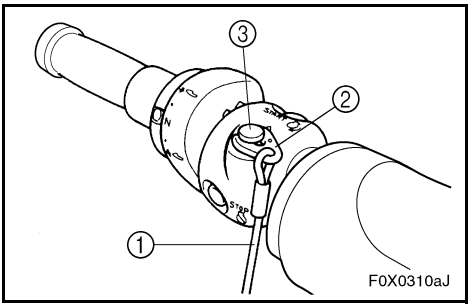
マリンジェットを使用する前にはオイルタンクキャップを確実に締めてください。



JJU14320

エンジン停止スイッチ

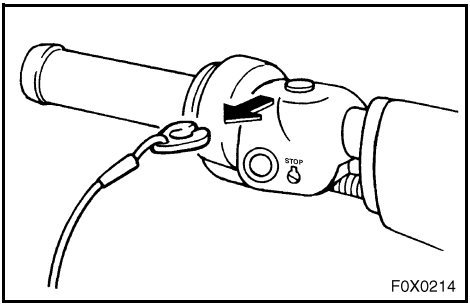
通常の場合はエンジン停止スイッチ ①（赤ボタン）を押してエンジンを停止させます。



JJU14330

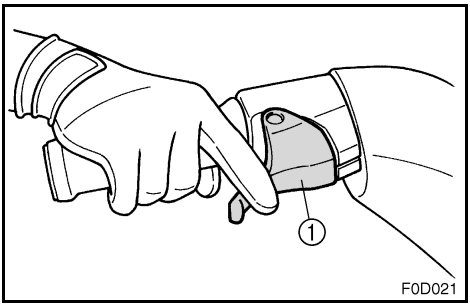
緊急エンジン停止スイッチ

カールコード ① に取り付けられたロックプレート ② を緊急エンジン停止スイッチ ③ の下側に差し込んでください。操船者の落水等により、カールコードに取り付けられたロックプレートが緊急エンジン停止スイッチから外れたとき、エンジンが自動的に停止します。



⚠警　告

- エンジンを始動する前には必ずカールコードを左手首に取り付けてください。
- 不意のエンジン始動や子供等が操作することを防止するために、エンジンが停止しているときは必ずロックプレートを緊急エンジン停止スイッチから外しておいてください。

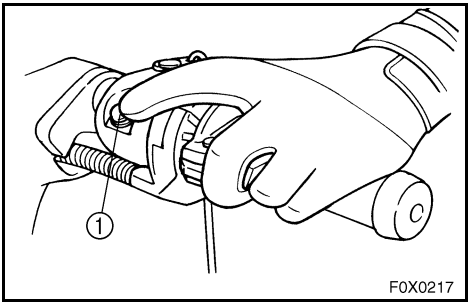


JJU19170

スロットルレバー

スロットルレバー ① をハンドル側に引くとエンジン回転数が上昇します。

スロットルレバーを放すと自動的にスロットルは閉じた位置（トローリング回転）に戻ります。



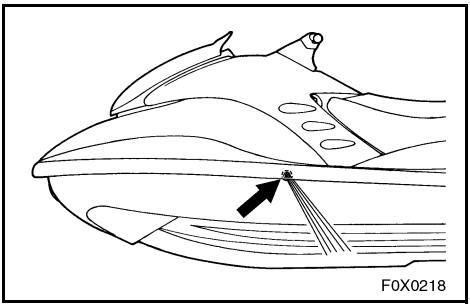
JJU18550

エンジン始動スイッチ

エンジンを始動するときはエンジン始動スイッチ ①（緑ボタン）を押します。

要　点

ロックプレートが緊急エンジン停止スイッチから外れていたり、スロットルレバーを握っているとエンジンは始動しません。



JJU14370

冷却水点検孔

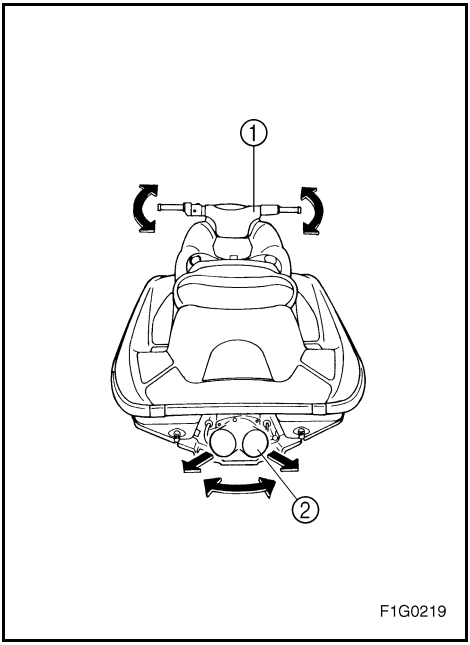
冷却水点検孔は艇体の両舷に有ります。

エンジン運転中、冷却水はエンジン内を循環し、その一部が点検孔から排出されます。

冷却装置の正常な作動は、点検孔から水が出ていることで確認できます。水が出ていない場合は冷却水がエンジンに供給されていない可能性があります。この場合、エンジンを停止して原因を調べてください（詳しくは、2-12、5-3 ページを参照ください）。

要　点

エンジン始動後に水が点検孔に達するまでに約 20 秒程かかることがあります。



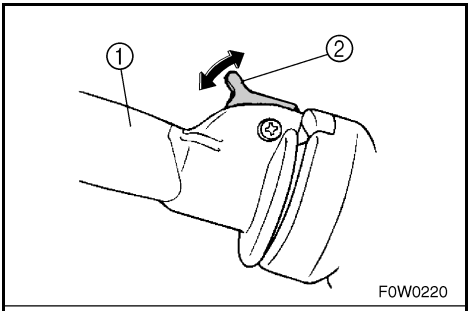
JJU19980

ステアリング

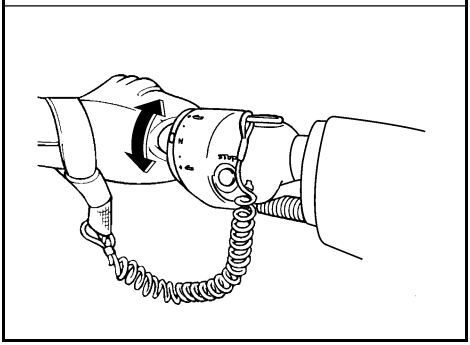
進みたい方向にハンドル ① を向けることで、マリンジェットのステアリング操作ができます。

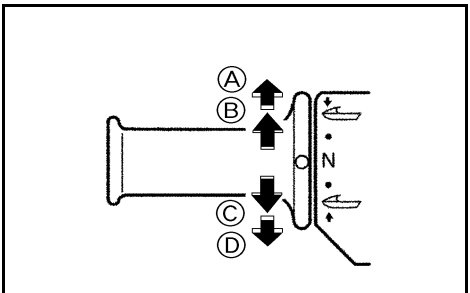
ハンドルを左右どちらかに向けると艇体後部に有るジェット ノズル ② の向きが変わり、これに応じてマリンジェットの進行方向が変わります。ジェット ノズルからの水流の方向や強弱によって、航走スピードや進行方向が変わりますので、旋回時はスロットルをトローリング回転数以上になるよう開ける必要があります。

このモデルはオフ・スロットル・ステアリング・システム（OTS）を備えたヤマハ・エンジン・マネージメント・システム（YEMS）を採用しています。OTS はプレーニング状態でスロットルを放してステアリングを切ったときに作動し、マリンジェットの減速中にも若干の推進力を与え続けることで旋回性の補助をします。旋回中にスロットルを開ければさらに急旋回をすることができます。OTSはエンジン停止状態またはプレーニングスピード以下では動作しません。

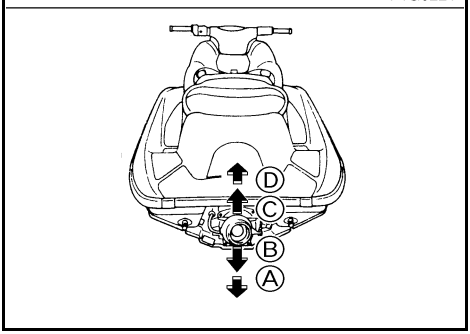


F0W0220





F1G0221



JJU17250

クイック・シフト・トリム・システム（QSTS）

クイック・シフト・トリム・システム（QSTS）コントローラ ① は、左のハンドルグリップを兼ねており、マリンジェットの航走トリム角度の調整に使用します。

QSTS コントローラを回すとジェットノズルの角度が上下に変わり、航走トリム角度が変わります。

船首ダウン :Ⓐ と Ⓑ（2 段階）、中立（ニュートラル）:N、船首アップ :Ⓒ と Ⓓ（2 段階）の 5 段階に調整できます。

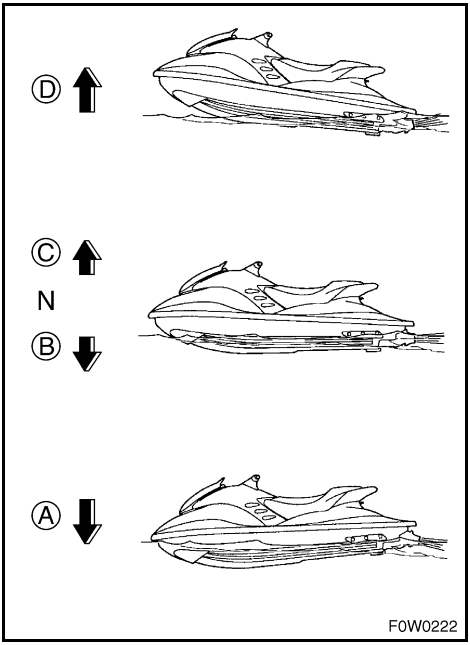
トリム角度の調整：

1. エンジン回転数を 3,000 r/min 以下にします。
2. シフトロックレバー ② を引き、コントローラを好みの位置まで回します。
3. シフトロックレバーを放し、その位置でコントローラを固定します。

⚠注 意

スロットル全開時にはコントローラを回さないでください。QSTS の故障の原因となります。

ニュートラル“N”の位置でも良好な性能が得られますが、ある特定の性能を高める場合は「船首ダウン」または「船首アップ」の位置を選んでください。



JJU14420

船首ダウン

滑走中、コントローラを船首ダウン Ⓐ または Ⓑ にセットすると船首が下がります。

船首が下がると船首の喫水が深くなりマリンジェットの接水面積が増して、旋回性能が向上します。またマリンジェットをよりすばやく滑走状態にすることもできます。

ただし、高速航走時は船首部へ受ける水の抵抗が大きくなり、操舵への影響も受けやすくなります。従って燃費、最高速度も低下します。

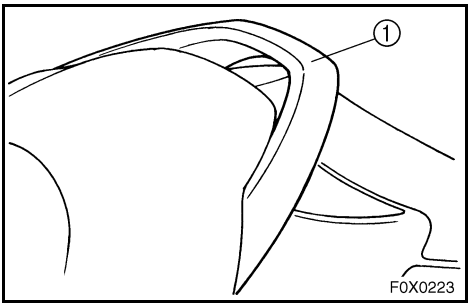
JJU14430

船首アップ

滑走中、コントローラを船首アップ Ⓒ または Ⓓ にセットすると船首が上がります。

船首が上がると船首の喫水が浅くなります。水の抵抗が少ないため、滑走中の直進加速性と最高速度が向上します。

ただし条件によっては、マリンジェットは船首の上下運動が大きくなる傾向があります。その場合はニュートラルまたは船首ダウンを選んでください。



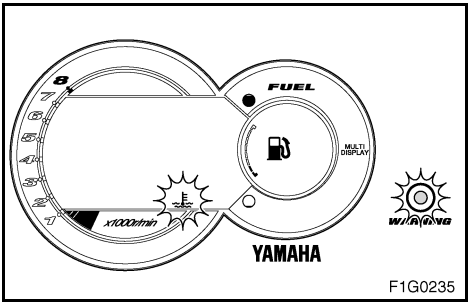
JJU15661

ハンドグリップ

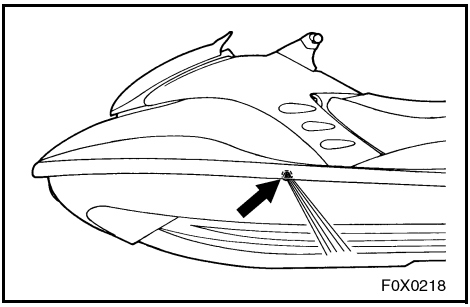
ハンドグリップ ① は水中からマリンジェットへ乗船する際に使用するためのものです。

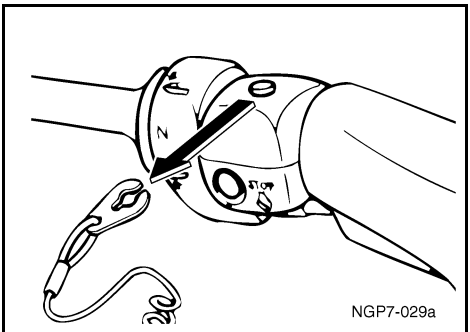
⚠注 意

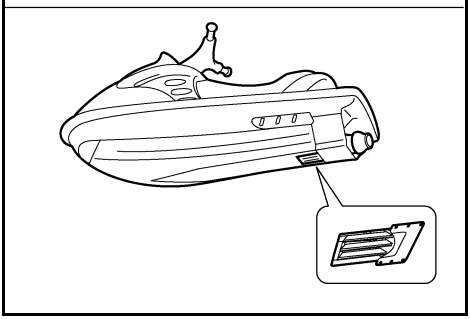
ハンドグリップを使用して艇体を吊り上げないでください。艇体が落下し、大きな怪我を負う恐れがあります。



F1G0235


F0X0218


NGP7-029a



JJU20490

オーバヒート警告装置

このエンジンにはオーバヒート警告装置がついています。エンジン温度が規定以上になると、警告灯、オーバヒート警告インジケータが点滅をはじめ、ブザーが断続的に鳴りはじめます。そうなったときは、エンジン回転数を落とし低速で岸に戻ってください。また、冷却水点検孔から冷却水が排水されているかどうかを点検してください。排水されていない場合は、ジェットインテーク（吸水口）とインペラ付近に異物が詰まっていないか点検してください。

警　告

ジェットインテーク（吸水口）やインペラ付近から異物を取り除く前には必ず、エンジンを停止させて緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを外してください。ジェットポンプの回転部品に触れると重大な事故につながる恐れがあります。

注　意

このモデルには触媒装置が装備されています。

- オーバヒート警告灯やインジケータが点滅し、ブザーが鳴りはじめたときは低速で岸に戻ってください。警告に従わなかったときはエンジンが停止し、温度が下がるまで再始動はできません。
- オーバヒートによってエンジンが停止したときは、ヤマハ取扱店にて点検整備を受けてください。

最初のオーバヒート警告を無視して高速航走を続けるとエンジン温度は更に上昇します。すると、各警告表示、ブザーは断続から連続に変わりエンジンを停止させます。

温度が下がるまでエンジンの再始動はできません。曳航して岸へ戻ってください。

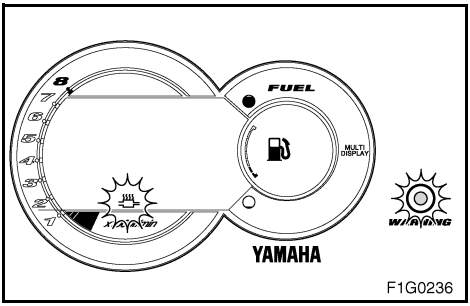
曳航方法は 5-7 ページの「マリンジェットの曳航」をご覧ください。

⚠注　意

オーバヒートの原因が判らないときは、ヤマハ取扱店にご相談ください。そのまま高速運転を続けると、重大なエンジン損傷の原因となります。

要　点

セレクトボタンを押すとブザーは鳴り止みます。



F1G0236

JJU20500

排気温度警告装置

このエンジンには排気温度警告装置がついています。排気温度が規定以上になると、排気温度警告インジケータ、警告灯が点滅をはじめ、ブザーも断続的に鳴りはじめます。そうなったときは、エンジン回転数を落とし低速で岸へ戻ってください。排気触媒装置が冷えるまで再使用しないでください。

⚠警　告

マフラの表面は熱くなり火傷をする恐れがあります。運転中、運転後もマフラには触わらないでください。触媒装置はエンジンを停止した後もさらに熱くなります。

⚠注　意

このモデルは触媒装置が装備されています。

- 警告灯、排気温度警告インジケータ、警告ブザーが作動しはじめたときは、低速（4,000 r/min 以下）で岸へ戻ってください。オーバヒートによってエンジンが停止したときは、ヤマハ取扱店で点検整備を受けてください。
- オーバヒートの要因が判らないときは、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

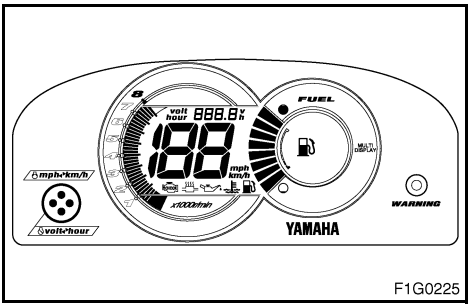
要　点

セレクトボタンを押すとブザーは鳴り止みます。

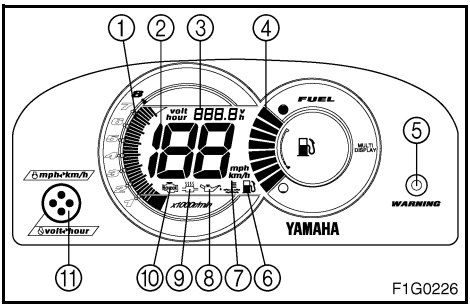
JJU19992

ヤマハ・エンジン・マネージメント・システム（YEMS）

このモデルは、マリンジェットを統合的にコンピュータ制御する YEMS を装備しています。YEMS はマリンジェットの点火時期や燃料噴射特性、自己診断機能、オフ・スロットル・ステアリング・システム（OTS）の制御を行なっています。



F1G0225



F1G0226

JJU20271

マルチファンクションメータ

このメータには次のような機能があります。

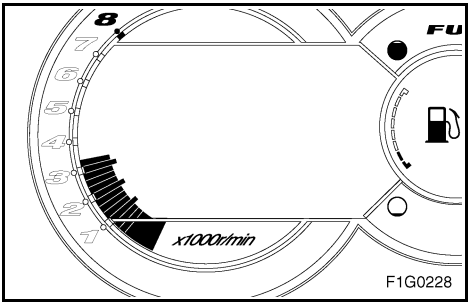
① タコメータ
② スピードメータ
③ アワーメータ／ボルトメータ
④ 燃料計
⑤ 警告灯
⑥ 燃料残量警告インジケータ
⑦ オーバヒート警告インジケータ
⑧ オイル残量警告インジケータ
⑨ 排気温度警告インジケータ
⑩ チェックエンジン警告インジケータ
⑪ セレクトボタン

⚠注 意

- 陸上でこのメータの作動を点検する場合は 4,000 r/min 以上でエンジンを運転しないでください。エンジンがオーバヒート、または触媒装置が損傷する恐れがあります。
- スパークプラグ、プラグキャップおよびハイテンションコードは抵抗入りの指定品を使用してください。指定品以外のものを使用すると、メータの誤作動の原因となります。

要 点

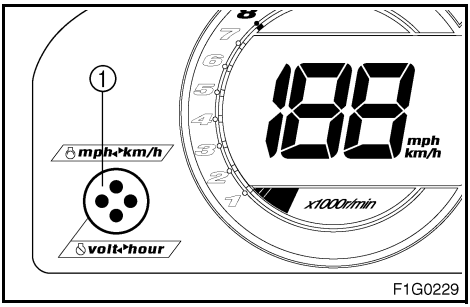
エンジン始動後は、全ての表示が点灯しブザーが 2 回鳴ります。数秒後、メータは通常に作動をはじめます。エンジン停止後も、25 秒間は表示したままになっています。



JJU15680

タコメータ

エンジンの回転数（r/min）は各セグメントで表示されます。それぞれのセグメントは、250 r/min 単位でエンジン回転数を表示します。



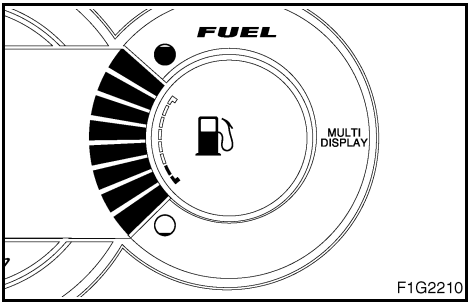
JJU20280

スピードメータ

マリンジェットの対水速度を表示します。

要 点

メータが表示された後、10 秒以内にセレクトボタン ① を 1 秒以上押すと、“km/h”と“mph”を切り替えることができます。



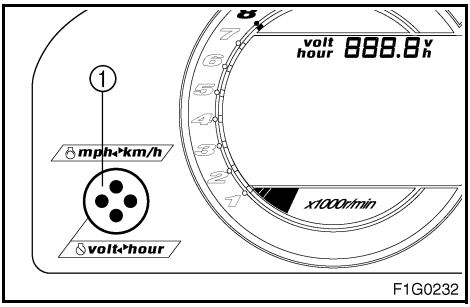
JJU15710

燃料計

燃料残量が確認できます。8 つのセグメントで表示されます。

要　点

セグメント表示は運航状況によって異なることがありますので、あくまで参考としてください。



JJU20290

アワーメータ／ボルトメータ

要　点

メータが表示されて 10 秒以上経過した後、セレクトボタン①を1秒以上押すと、アワーメータとボルトメータを切り替えることができます。

アワーメータ

定期点検の時期管理がしやすいようにアワーメータが装備されています。

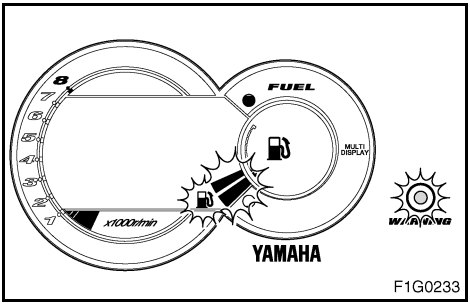
エンジン運転中に表示を切り替えることで、マリンジェット購入時からのエンジン使用時間が累積表示されます。

ボルトメータ

バッテリの電圧が表示されます。

通常は 12 V 以上を示しています。

表示電圧が低い場合はマリンジェットを着岸させ、必要に応じてヤマハ取扱店で充電系統の点検を受けてください。

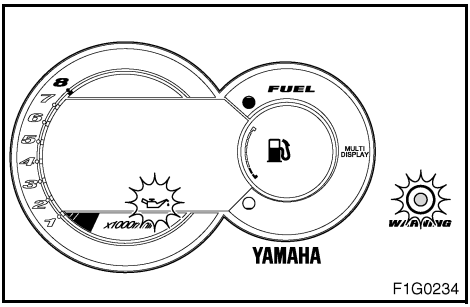


JJU15730

燃料残量警告

燃料残量が 13 L 以下になると、下 2 つのセグメント、燃料残量警告インジケータ、および警告灯が点滅をはじめます。同時にブザーも断続的に鳴りはじめます。

これらの警告は燃料を給油後、エンジンを再始動したときに解除されます。



JJU20510

オイル残量警告

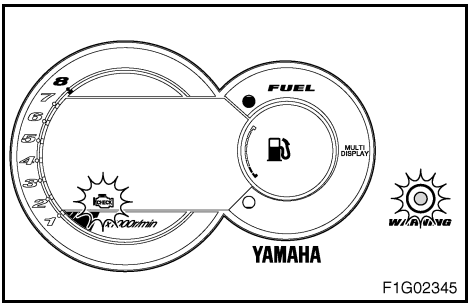
オイル残量が 1.7 L 以下、またはオイルフィルタが目詰まりすると、オイル残量警告インジケータ、警告灯が点滅をはじめます。同時にブザーも断続的に鳴りはじめます。

オイル残量の警告表示が点滅をはじめたら、できるだけ早くエンジンオイルを補給してください。

これらの警告はオイルを補給後、エンジンを再始動したときに解除されます。

要　点

オイルがオイルタンクに十分残っているにもかかわらずオイル残量警告が作動したときは、ヤマハ取扱店にオイルフィルタの点検を依頼してください。

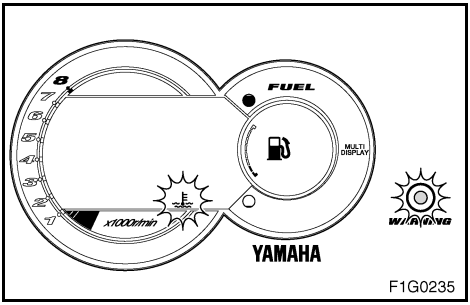


JJU20310

チェックエンジン警告

各種センサの故障、断線等の異常を検知すると、警告灯とインジケータが点滅をはじめ、同時にブザーも断続的に鳴りはじめます。

このような症状がでたときは、ただちにエンジン回転数を下げ、マリンジェットを着岸させ、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。



F1G0235

JJU20300

オーバヒート警告

エンジン温度が規定以上になると、オーバヒート警告インジケータ、警告灯が点滅をはじめます。同時にブザーも断続的に鳴りはじめます。

断続的な警告を発した後に高速航走を続けた場合は、オーバヒート警告インジケータ、警告灯は連続的な警告に変わります。

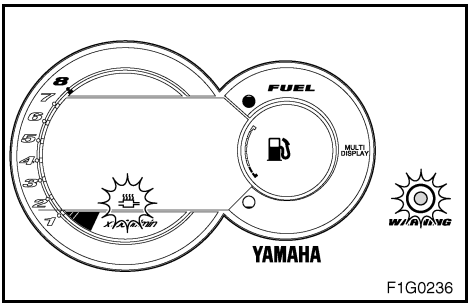
同時にエンジンが停止し、ブザーも連続して鳴ります。2-12 ページの「オーバヒート警告装置」を参照ください。

これらの警告はエンジンが冷えた後、再始動したときに解除されます。

要　点

警告が重複したときの優先順位は次のようになっています。

1. 2 度目のオーバヒート
2. 燃料
3. オイル
4. 最初のオーバヒート
5. 排気温度
6. チェックエンジン



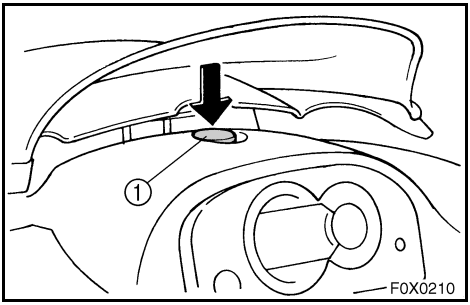
F1G0236

JJU15760

排気温度警告

排気温度が規定値以上になると、排気温度警告インジケータ、警告灯が点滅をはじめ、ブザーが断続的に鳴りはじめます。

2-13 ページの「排気温度警告装置」を参照ください。



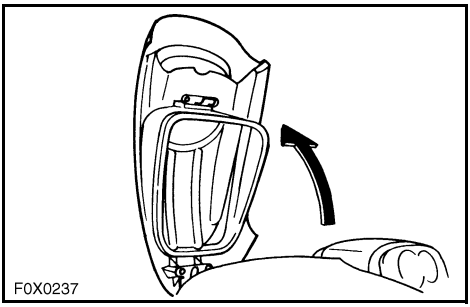
JJU15770

物入れ

船首物入れ、グローブボックスが設けられています。

要　点

- 操船前に各物入れのフタが確実に閉まっていることを確認してください。
- 物入れは防水構造になっておりません。船舶検査証書、船舶検査手帳、取扱説明書等、水に濡れて困るものは防水バッグに入れて携行してください。



JJU15780

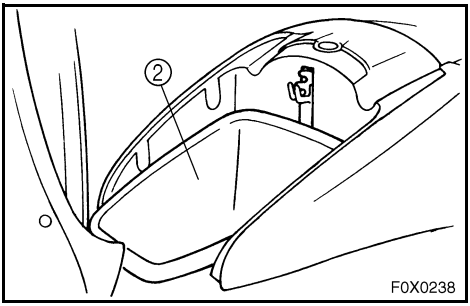
船首物入れ

船首物入れ ② はフードの下に有ります。

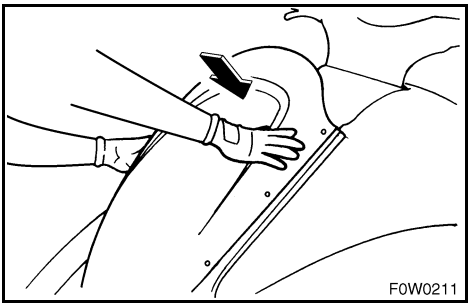
ロックボタン ① を押してフードを開けてください。

要　点

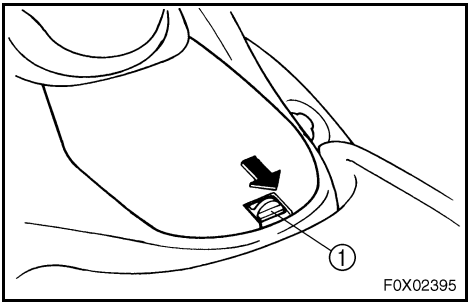
船首物入れを取り外すとエンジンルームにアクセスできます。



船首物入れ
　容量：16.0 L
　制限重量：5.0 kg



閉めるときはフード後部を押し下げ、確実に固定してください。

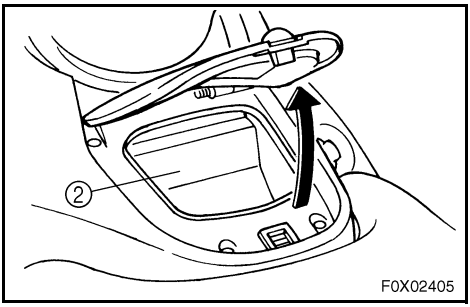


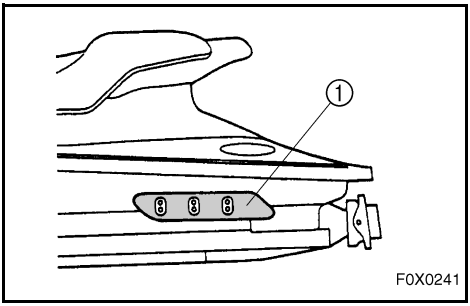
JJU14670

グローブボックス

グローブボックス②はフロントシートの前に有ります。グローブボックスを開けるときは、ラッチ①を手前に引いて、フタを開けてください。閉めるときはラッチ部を押し下げ、確実に固定してください。

グローブボックス
容量：2 L
制限重量：1 kg

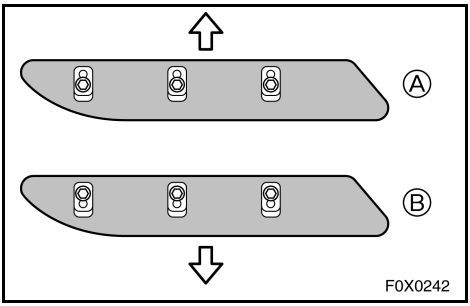




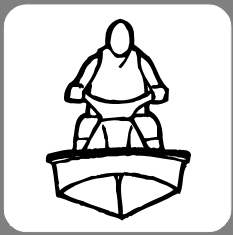
JJU15791

ヤマハ･アジャスタブル･スポンソン（YAS）

YAS①の取り付け位置を変えることにより、操船者の好みや使用状況によって直進性または旋回性の機能を高めることができます。



上方 Ⓐ へ取り付けた場合：
水の抵抗が減り、直進時の加速性と最高速度が高められます。
下方 Ⓑ へ取り付けた場合：
水のつかみが増し、旋回性が高められます。



JJU14690

実際に乗ってみましょう

使用する燃料とオイル 3-1
燃料 3-1
ガソリンの給油 3-3
エンジンオイル 3-4
エンジンオイルの給油 3-5
使用前の点検 3-6
使用前の点検チェックリスト. 3-6
使用前点検チェックポイント. 3-7
クイック・シフト・トリム・システム
(QSTS) 3-12
操作方法 3-16
慣らし運転 3-16
エンジンの始動 3-18
エンジンの停止 3-20
マリンジェットから離れるとき. 3-20
マリンジェットの操船 3-21
使用の前に 3-21
操船の前に 3-21
同乗者との乗船 3-22
出航 3-23
深いところでの乗船と出航 3-24
同乗者と乗り込む場合 3-25
転覆したときには 3-27
マリンジェットの旋回 3-28
停船するときには 3-31
海岸に着岸するときには 3-32
桟橋に接岸するときには 3-32
波が荒いところでの操船 3-32
使用後のお手入れ 3-33

運搬 3-35

3

JJU20320

使用する燃料とオイル

このエンジンには分離給油システムが採用されており、最適なオイル供給により常に最良の潤滑が得られるようになっています。燃料とオイルの混合は不要です（慣らし運転時を除く）。燃料は燃料タンクに、オイルはオイルタンクに給油します。

このエンジンには電子制御燃料噴射装置（Electronic Fuel Injection System）が採用されており、燃料供給を電子制御することで状況に応じた最適な空燃比が得られるようになっています。常に最適な燃焼状態を保つことで始動性や燃費の向上等の効果をもたらします。

JJU19211

燃料

推奨燃料：無鉛レギュラーガソリン

本製品は無鉛レギュラーガソリンで最適性能が得られるように設計されておりますので、ハイオクガソリンを使っても特に効果はありません。

無鉛レギュラーガソリンを使いましょう。

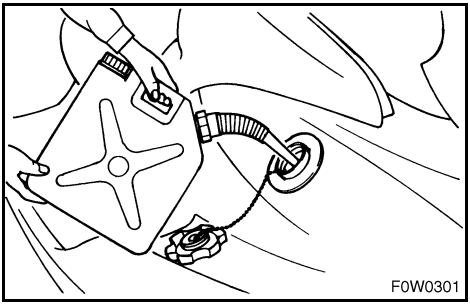
⚠警　告

ガソリンは高い引火性と爆発性があります。

- 給油中はタバコを吸わないでください。また、他の火気を近づけないでください。
- 給油はエンジンを停止してから行なってください。
- 給油はマリンジェットを水平に保ち、換気の良い場所で行なってください。
- マリンジェットに乗船したまま給油しないでください。
- ガソリンをこぼさないように十分注意を払ってください。こぼれたときはただちに乾いた布で拭き取ってください。ガソリンがしみこんだ布は安全な場所で焼き捨てるなどして処分してください。
- 燃料タンクへは規定容量以上給油しないでください。燃料は温度上昇とともに膨張して溢れる恐れがあります。給油は燃料タンクと給油チューブの接続部までとしてください。燃料タンクが満タンの状態で、マリンジェットを直射日光の下に放置しないでください。マリンジェットを水平に保ち、換気の良い場所に置いてください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。
- 飲み込んだり、目に入ったり、または揮発蒸気を多量に吸い込んだ場合は、ただちに医者の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、ただちに石鹸等を使って洗い流してください。衣類に付着した場合は着替え等を行なってください。

⚠注　意

- 有鉛ガソリンは使用しないでください。有鉛ガソリンは触媒装置に大きな損傷を与える恐れがあります。
- ガソリンは必ず新しいものを使用してください。



JJU20330

ガソリンの給油

⚠注　意

燃料タンクに水や他の異物が混入しないように注意して給油してください。異物の混ざった燃料は、エンジンの作動不良や損傷の原因となります。

1. フードを開け、船首物入れを取り外し、燃料タンクの燃料残量を確認します。
2. 燃料タンクキャップを開けて燃料をゆっくりと給油します。
3. 燃料が給油口チューブとタンクの接続部に達したら給油を止めてください。

燃料タンクの容量：
　総量：60 L

JJU14730

エンジンオイル

⚠注　意

YAMALUBE 2-W（ヤマルーブ 2-W）を必ずご使用ください。
他のオイルを使用した場合は、触媒装置やエンジン部品に大きな損傷を与える恐れがあります。

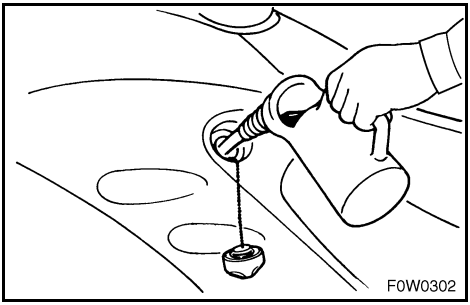
推奨オイル：
YAMALUBE 2-W（ヤマルーブ 2-W）に限る。

KA061a

要　点

YAMALUBE 2-W（ヤマルーブ 2-W）はこのモデル専用に開発されております。
ヤマハ取扱店にてお求めできます。

YAMALUBE 2-W（ヤマルーブ 2-W）
部品番号：90790-70417（946 mL）
90790-70420（3.7 L）



JJU14740

エンジンオイルの給油

警　告

- オイルタンクにガソリンを入れないでください。火災や爆発の原因となります。
- オイルがビルジに溜ると火災の原因となります。こぼれたオイルはただちに拭き取ってください。

注　意

オイルタンクが完全に空にならないように注意してください。タンクが空になった場合は、オイルポンプのエア抜きが必要になります。これを怠るとエンジンが焼き付く恐れがあります。エア抜きが必要な場合は、ヤマハ取扱店にご依頼ください。

1. フードを開けます。オイル量確認のためフロントシートも外します。
2. オイルタンクキャップを開け、エンジンオイルをゆっくりと補給します。
3. 油面が給油口チューブとタンクの接続部に達したら補給を止めます。

オイルタンクの容量：5.5 L

JJU14750

使用前の点検

JJU17470

使用前の点検チェックリスト

マリンジェットを使用する前に、次の点検を行なってください。この章では点検方法について説明しています。

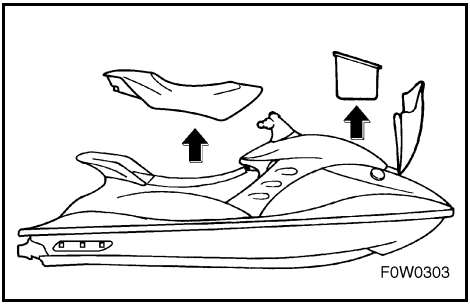
警　告

正しく作動しない項目が一つでも有る場合は、ヤマハ取扱店で整備を受けて使用してください。そのまま使用すると事故の原因となる恐れがあります。

項目	点検方法	参照ページ
エンジンルーム	シートと船首物入れを取り外しエンジンルームの換気を行ないます。	3-7
ビルジ	水や燃料が溜まっている場合は完全に取り除きます。	3-9
ドレンプラグ	ドレンプラグが確実に取り付けられていることを確認します。	3-9
スロットルレバー	スロットルレバーが正常に作動することを確認します。	3-11
ステアリング	ステアリングが正常に作動することを確認します。	3-11
QSTS	正常に作動する事を確認します。	3-12
燃料、オイル	燃料、オイル量を点検します。必要な場合は補給します。漏れがないことを点検します。	3-8
水分離器	水が溜まっていたら水抜きをします。	3-8
バッテリ	バッテリの液量と充電状態を点検します。	3-10
フード	確実にロックされている事を確認します。	2-6
シート	デッキに確実に固定されていることを確認します。	2-5
艇体	損傷のないことを点検します。	3-7
ジェットインテーク（吸水口）	異物が付着したり、詰まりのないことを確認します。	3-13
カールコード	カールコードの損傷がないことを確認します。必要な場合は交換します。	3-13
スイッチ類	エンジン始動スイッチ、停止スイッチおよび緊急エンジン停止スイッチの作動を点検します。	3-14
冷却水点検孔	エンジン運転中に水が出ていることを確認します。	3-15
マルチファンクションメータ	メータが正しく作動するか点検します。 警告表示がされていないことを確認します。	3-15

要　点

使用前の点検はマリンジェットを使用する毎に行なってください。この点検は短時間で行なえますので、安全と信頼性を確保するために必ず実施してください。



JJU14770

使用前点検チェックポイント

JJU15810

エンジンルーム

使用する前に必ずエンジンルームの換気を行なってください。換気はシートと船首の物入れを取り外して行ないます。（シートの着脱方法については2-5ページを参照ください。）燃料気化ガスが無くなるまで数分間開けたまま放置してください。電装系接続部分の緩みも点検してください。

警　告

エンジンルームの換気を怠ると火災または爆発を生じる恐れがあります。エンジンルームに燃料漏れや電装系接続の緩みがあるときはエンジンを始動しないでください。

JJU20650

艇体

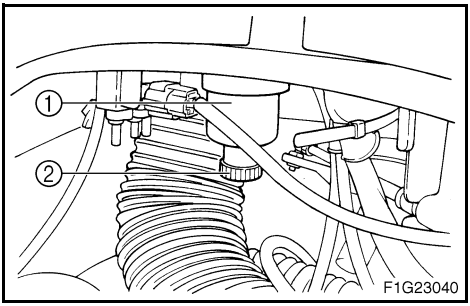
艇体にクラックやへこみ等の損傷がないことを確認します。損傷がある場合は、ヤマハ取扱店に修理を依頼してください。

JJU20340

燃料･オイル系統

使用する前には必ず、漏れ、破損、不具合等がないことを点検してください。（点検箇所については4-10ページから4-11ページまでを参照ください。）

1. 燃料タンク内には圧力がかかっていることがあるため、燃料タンクキャップを外して圧力を逃がします。
2. フードを開け船首物入れを取り外します。シートを取り外します。（シートの着脱方法については 2-5 ページを参照ください。）
3. 燃料およびエンジンオイルの残量を点検し、必要な場合は補給します。（給油方法については 3-3、3-5 ページを参照ください。）



JJU19220

水分離器

水分離器 ① の水を点検してください。通常は空になっています。マリンジェットが転覆すると、燃料タンクブリーザパイプを経由して侵入した水が水分離器の中に溜ります。

水が溜っている場合は、ドレンスクリュ②を外して排水します。排水は、受け皿に受けたり、乾いた布にしみ込ませたりして船内にこぼさないようにしてください。船内にこぼした場合は、乾いた布で拭き取ってください。排水後は再びドレンスクリュを確実に取り付けてください。

JJU20350

ビルジ（あか水）

ビルジを点検してください。

このマリンジェットには従来のジェット負圧式ビルジ排出装置の他に、電動ビルジ排出装置がついています。電動ビルジ排出装置はエンジン運転中は常に作動し、ビルジが溜まって電動ビルジポンプの吸水口に達すると、排気経路を経由してジェットノズルから排出されます。

しかし、多少のビルジが残るため、完全に排出するときは以下の手順を行なってください。

ビルジの排出方法：

1. 船尾ドレンプラグを外します。
2. 船首部を持ち上げて排水します。
3. 排水後、乾いた布で残ったビルジを拭き取ります。
4. ドレンプラグをもとのように取り付けます。

⚠注　意

- マリンジェットを進水する前にはドレンプラグが確実に締められていることを確認してください。
- ネジ部分にゴミや砂などの異物が付着している場合は取り除いてからプラグを取り付けてください。

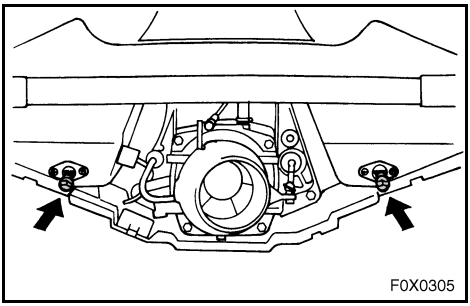
JJU20660

ドレンプラグ

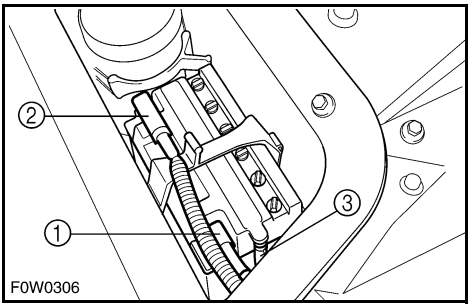
ドレンプラグの取り付け状態を確認してください。

⚠注　意

- マリンジェットを進水する前には必ずドレンプラグが確実に取り付けられていることを確認してください。確実に取り付けられていないと、エンジンルームに浸水してマリンジェットが沈没する恐れがあります。



- ネジ部分にゴミや砂などの異物が付着している場合は取り除いてからドレンプラグを取り付けてください。ドレンプラグが損傷し、エンジンルーム内に浸水する恐れがあります。



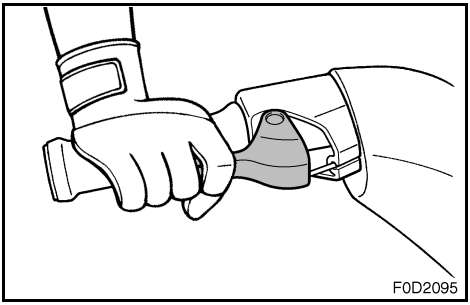
JJU19750

バッテリ

バッテリの液量を点検し、エンジンの始動が容易に行なえる状態であることを確認します。ターミナル ①、② の締め付けおよび腐食の状態も点検します。ブリーザホース ③ が確実に接続され、折れ曲がりのないことを確認します。バッテリの状態が悪いときは良好なものと交換してください。（バッテリの充電方法については 4-17 ページを参照ください。）

警　告

- バッテリは常に完全充電で良好な状態にしておいてください。バッテリ容量がなくなると途中で立ち往生することになります。エンジンの始動に必要な容量がない、あるいは容量不足の兆候があるときは絶対にマリンジェットを使用しないでください。
- ブリーザホースはバッテリに確実に取り付けてください。ブリーザホースが損傷していたり、折れ曲がっていたり、確実に取り付けられていない場合、火災や爆発の恐れがあります。



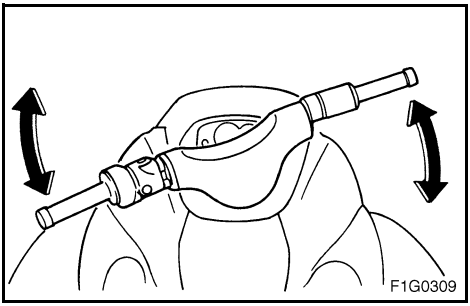
JJU19390

スロットル

スロットルレバーを数回操作し、軽くスムースに動くかどうか点検してください。全域にわたって滑らかに動き、手を放したときに自動的にスロットルを閉じた位置（トローリング回転）に戻ることを確認します。

警　告

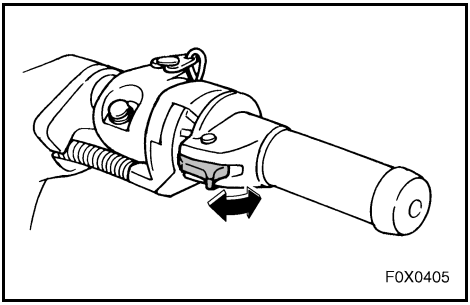
エンジンを始動する前に必ずスロットルレバーの作動を確認してください。

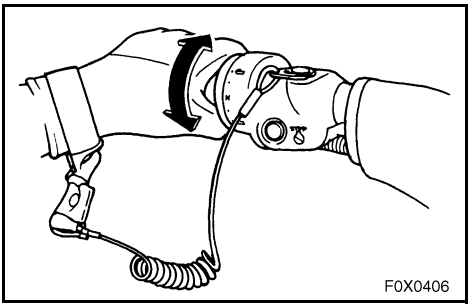


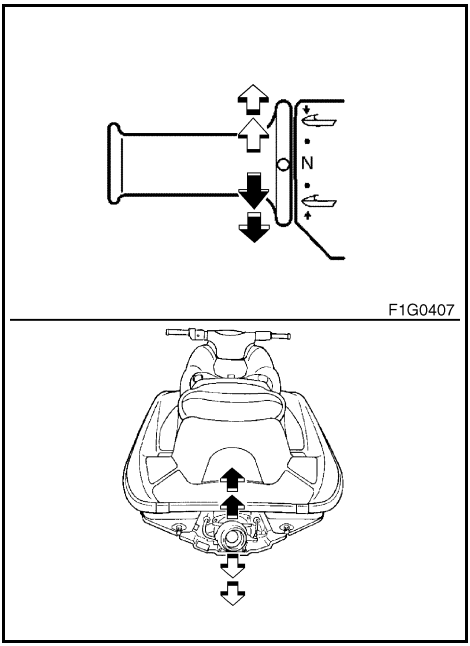
JJU15830

ステアリング

ステアリングハンドルにガタつきがないことを確認してください。左右にいっぱい動かし、全域にわたって滑らかに動くことを確認します。ハンドルの動きに応じてジェットノズルの方向が変わることも確認してください。







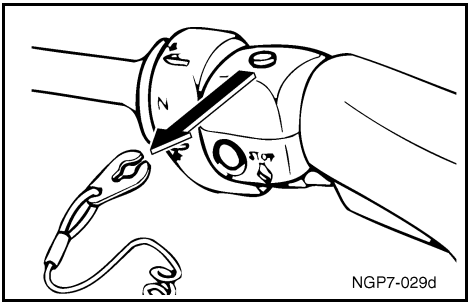
JJU20670

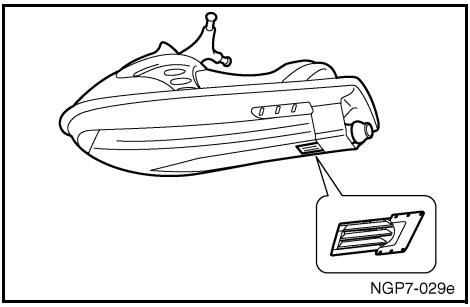
クイック・シフト・トリム・システム（QSTS）

シフトロックレバーを繰り返して操作し、正常に作動するか確認します。

1. レバーを放したとき、ロック位置に滑らかに戻ることを確認します。
2. シフトロックレバーを引き寄せた時にQSTS コントローラが滑らかに動き各ポジションに入ることを点検します。
3. コントローラをニュートラルから船首アップ、または船首ダウンにシフトしたときに、ジェットノズルの角度が中間位置から上、または下に変わることを確認します。

システムが正常に作動しない場合は、ヤマハ取扱店に整備を依頼してください。





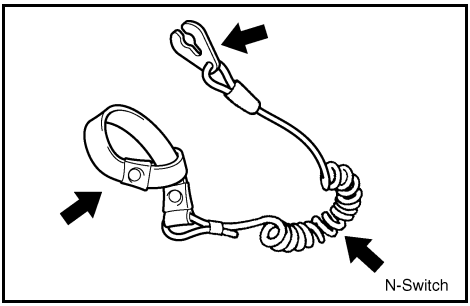
JJU14860

ジェットユニット

給水を阻害する可能性のある海藻やゴミなどの異物がジェットインテークに付着していないことを点検します。異物が詰まっているとジェット推進力が低下し、またはジェットポンプの部品が損傷する恐れがあります。エンジンの冷却水はジェットポンプによってエンジンに送られるため、場合によっては冷却水が不足しエンジン損傷の原因となります。（ジェットインテークの清掃方法については5-3ページから5-4ページを参照ください。）

⚠警　告

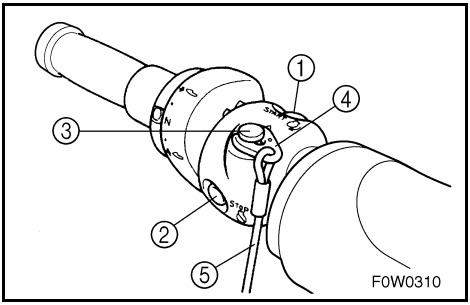
- エンジン運転中はジェットインテーク（吸水口）に近づかないでください。長髪、緩んだ衣服、救命胴衣の紐等が巻き込まれ、怪我をしたり、溺れる恐れがあります。
- ジェットインテーク（吸水口）やインペラ付近に詰まっている異物を取り除くときは、必ずエンジンを停止させ、緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを外してください。



JJU14870

カールコード

カールコードのほつれや損傷を点検します。コードの損傷等を見つけたら必ず交換してください。決して補修したり繋ぎ合せて使用しないでください。



JJU14881

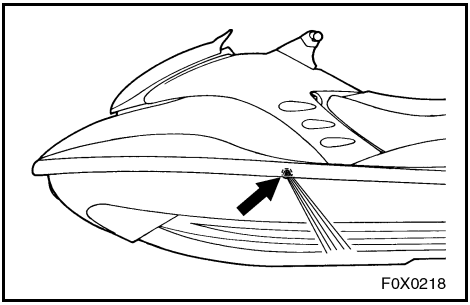
スイッチ類

⚠注 意

陸上ではエンジン冷却経路へ水道水を供給せずに 15 秒以上エンジンを運転しないでください。オーバヒートを起こす恐れがあります。

エンジン始動スイッチ、エンジン停止スイッチ、緊急エンジン停止スイッチを点検してください。

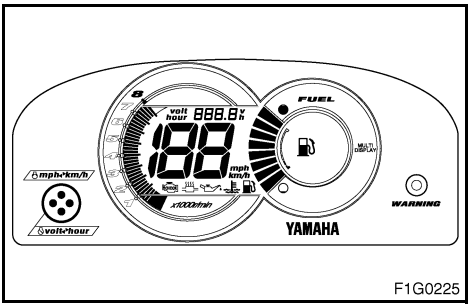
点検は以下の手順で行ないます。エンジン始動スイッチ ① を押してマリンジェットのエンジンを始動させ、エンジンが始動したらすぐにエンジン停止スイッチ②を押して、エンジンが停止することを確認してください。その後エンジンを再始動し、カールコード⑤を引っ張って、緊急エンジン停止スイッチ③からロックプレート ④が外れるとエンジンがただちに停止することを確認してください。（各スイッチの正しい作動については 2-7 ページから 2-8 ページを参照ください。）



JJU14890

冷却水点検孔

水上でエンジン運転中に点検孔から水が排出されていることを確認してください。



JJU14900

マルチファンクションメータ

マルチファンクションメータの作動を点検します。（メータの正しい作動については2-15ページから2-19ページまでを参照ください。）

JJU14910

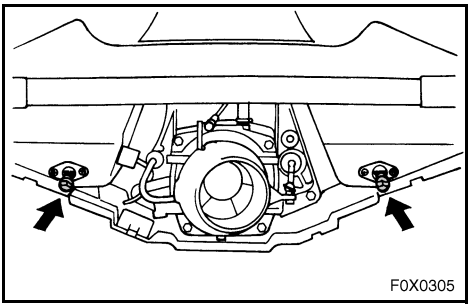
操作方法

警　告

マリンジェットに乗る前には、基本操作を十分に理解してください。操作方法が良く判からない場合はヤマハ取扱店にお尋ねください。理解できないまま操船すると事故を起す恐れがあります。

注　意

マリンジェットを進水する前に、船尾ドレンプラグが確実に締め付けられていることを確認してください。



JJU14920

慣らし運転

エンジン構成部品等の摺動面を均一に摺り合せるために、慣らし運転期間が必要です。慣らし運転を行なうことにより、安定した性能が得られるとともに各部品の寿命も延びます。

注　意

最初の燃料タンクへの給油は、50:1 の割合で（オイルタンクのオイルの他に）オイルを混合した燃料を満タンにして使用してください。最初の混合燃料を使い切った後は、ガソリンだけを使用してください。

1. マリンジェットを水に浮かべてエンジンを始動します。

2. 最初の5分間はトローリング速度でエンジンを運転してください。
3. 次に、徐々にスロットルを開き5,000 r/min またはそれ以下で運転します。
4. 燃料タンク内の満タンの混合燃料を使いきるまでは、スロットル開度を5,000 r/min またはそれ以下での運転を続けてください。
5. ガソリンのみを燃料タンクに給油して、通常の運転を行ないます。

⚠注　意

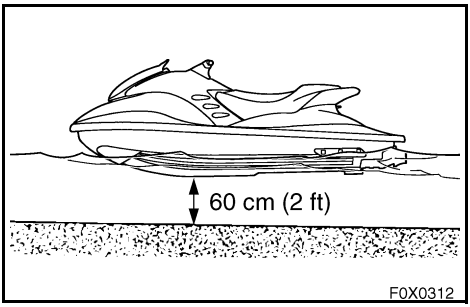
慣らし運転を正しく行なわなければエンジンに重大な損傷をまねく恐れがあります。

JJU17550

エンジンの始動

警　告

閉め切った場所でエンジンを始動させたり、短時間であっても運転することは絶対にしないでください。排気ガスは一酸化炭素を含み、中毒を起す恐れがあります。マリンジェットは開放された場所でご使用ください。



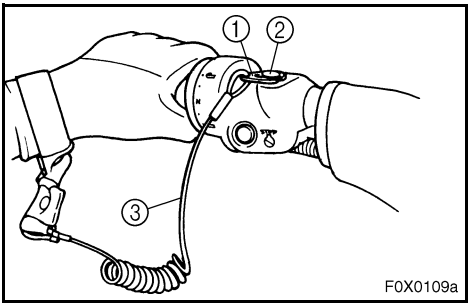
1. 海藻やゴミの無い 60 cm 以上の深さが有るところで、マリンジェットを進水させてください。

警　告

深さが60 cm以下の場所では絶対に乗らないでください。水中の障害物等に接触する恐れがあり、負傷等につながる恐れがあります。

注　意

深さが60 cm以下の場所では絶対に乗らないでください。小石や砂がジェットインテーク（吸水口）に吸引されインペラを破損したり、エンジンのオーバヒートの原因になります。



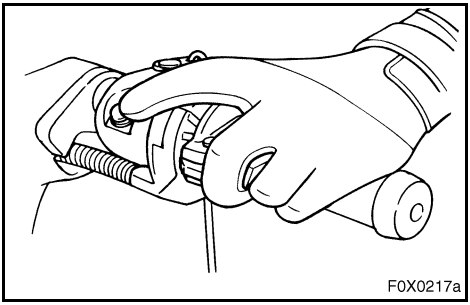
2. ロックプレート ① を緊急エンジン停止スイッチ ② に取り付けます。カールコード ③ は左手首に取り付けます。

警　告

操船者が落水したときに、エンジンが停止するように、カールコードのほつれ、損傷、ハンドル等への絡み付きがないことを確認してください。操船者が落水した後もマリンジェットは航走を続け、事故の原因となります。

要　点

ロックプレートが緊急エンジン停止スイッチから外れているときは、エンジンは始動できません。



3. スロットルレバーを放した状態で、エンジン始動スイッチ（緑色ボタン）を押します。

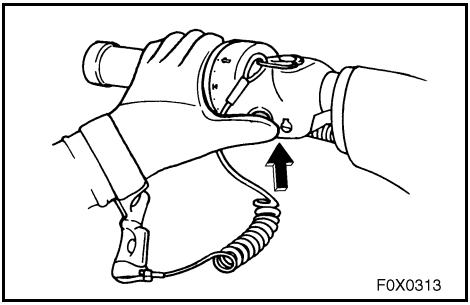
要　点

スロットルレバーを握っているとエンジンがかからない機構になっています。

4. エンジン始動後はただちにエンジン始動スイッチを放します。

⚠注　意

- エンジン運転中はエンジン始動スイッチを絶対に押さないでください。
- スタータモータは連続して 5 秒以上回さないでください。バッテリが上がり、エンジンが始動できなくなる恐れがあります。また、スタータモータ損傷の要因ともなります。5 秒でエンジンが始動しないときは、15 秒待ってから再始動してください。



JJU14950

エンジンの停止

エンジンを停止させるときはスロットルレバーを放し、エンジン停止スイッチ（赤色ボタン）を押します。

警　告

進路を変えるためにはスロットル操作が必要です。エンジンを停止すると障害物を回避できずに衝突し、重大な事故の原因になります。

JJU15860

マリンジェットから離れるとき

マリンジェットから離れるときは、不意の始動や子供等が操作することを抑止するために緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外しておいてください。

JJU14970

マリンジェットの操船

JJU20360

使用の前に

マリンジェットの操船には練習を通して得られる技術が必要です。高度な技量を要する操船に挑戦する前に、基本的な技術を時間をかけて習得するようにしてください。

マリンジェットを楽しむためには、まず操作によく慣れ、安全に操船するための技術を覚えることが重要です。乗船前には必ず本書をお読みいただき、操船方法を理解してください。特に 1-6 ページから 1-11 ページの「ご自身と同乗者、他の船舶、遊泳者等に関する安全情報」をよくお読みください。また、全ての警告ラベルと注意ラベルを必ずお読みください。

このマリンジェットは操船者と同乗者1名の合計 2 名まで乗船できます。最大積載重量や2名の定員を越える乗船は絶対しないでください。

最大積載重量 （荷物および乗員の合計重量）： 160 kg

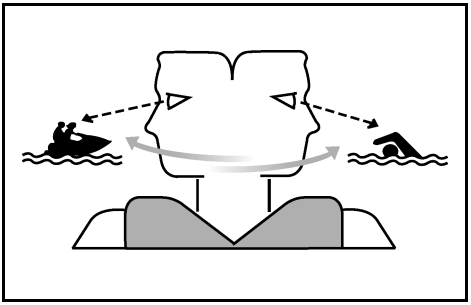
JJU14991

操船の前に

乗船前には必ず 3-6 ページの「使用前の点検チェックリスト」に添って点検を行なってください。

マリンジェットに乗船する前には関連規則の全てをご確認ください。

控えめな安全速度で、周囲の遊泳者、障害物、船舶等から十分な距離を保って航走してください。



操船の練習は視界が良好で船舶等の交通量が少ない広い場所で行なってください。

陸岸から離れて操船するときは、単独で行動しないでください。周囲の遊泳者、障害物、周囲の船舶等の見張りを怠らないでください。視界が制限されたり、妨げられたりする状況には警戒してください。

操船者が落水したとき、ただちにエンジンが停止するようカールコードを左手首に取り付け、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。

乗船者は救命胴衣の着用が義務付けられています。日本小型船舶検査機構（JCI）認定のマリンジェットの用途に適した救命胴衣を必ず着用してください。

身体を保護できる衣服を着用してください。落水による水面への衝撃やジェットノズル付近で強い噴流を受けた場合、身体開口部に大きな怪我を負う恐れがあります。通常の水着では下半身開口部の十分な保護になりません。身体保護のできるウェットスーツボトム等を必ず着用してください。厚くしっかりした丈夫な布でデニムのように体にぴったりした衣類がそれに相当します。しかし、自転車競技用の短パンに使われているスパンデックスのような織物は効果がありません。全身用のウェットスーツは体温の低下や切傷等からの保護にもなります。

シューズ、手袋、風や水飛沫、紫外線から目を保護できるゴーグル（保護眼鏡）等も併せて着用ください。眼鏡の拘束紐には、眼鏡が水没したときに水に浮くようなものも有ります。

ハンドルはしっかりと握り、両足はフットウェルフロアに乗せておきます。1人での操船に十分に慣れるまでは同乗者を乗せないでください。

JJU19311

同乗者との乗船

1人のときに比べ、同乗者を伴う場合はマリンジェットの操船特性は異なってきます。操船がより難しくなるために高度な技量が必要となります。同乗させる前に、1人で十分に練習して必要な技術を習得するようにしてください。

操船者および同乗者は救命胴衣の着用が義務付けられています。日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣とウェットスーツボトム、または同等の保護効果のある衣服を必ず着用してください。

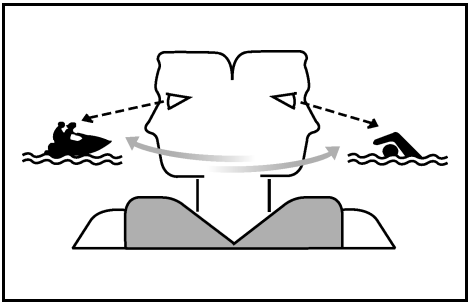
警　告

マリンジェットの背後に人がいるときは、スロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、トローリング回転にしてください。ジェットノズルから排出される水や異物で怪我をする恐れがあります。操船者がエンジンを掛けているとき同乗者は乗船しないようにしてください。

フットウェルフロアに足が届かないような子供などは乗せないでください。同乗者は前の人にしっかりと掴まり、両足はフットウェルフロアに乗せておきます。

警　告

同乗者が乗船しているとき、操船者は加速を開始する前に、同乗者がしっかりと着座し、両足がフットウェルフロアに乗っていることを確認してください。

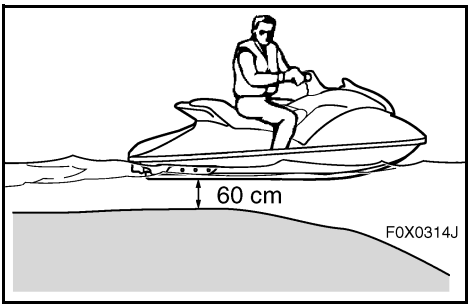


JJU15010

出航

警 告

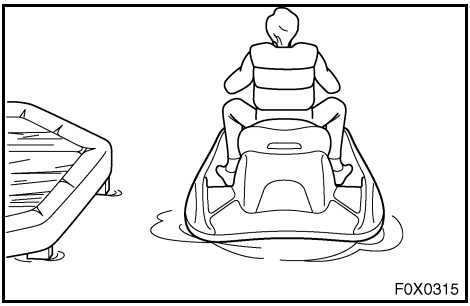
- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度や距離を保って航走してください。
- マリンジェットや船舶等の背後を追走しないでください。
- 周囲のものに水飛沫等が掛かるまで接近しないでください。
- 急旋回等、周囲の操船者が予測困難な航走は行なわないでください。
- 浅瀬や暗礁等のある水域では使用しないでください。



JJU15020

浅瀬からの出航と乗船

1. 深さが60 cm以下のところでエンジンを始動しないでください。十分に深いところまでマリンジェットを運び、マリンジェットの横または後ろ側から乗船します。
2. カールコードを左手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。
3. 両手でハンドルを握り、両足をフットウェルフロアに乗せ、エンジンを始動して出航します。



JJU15030

桟橋からの出航

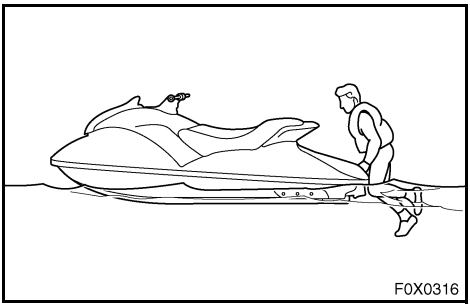
1. マリンジェットの横から乗船します。
2. カールコードを左手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。
3. 桟橋からマリンジェットを押し出し、両手でハンドルを握り両足をフットウェルフロアに乗せ、エンジンを始動し出航します。

JJU15040

深いところでの乗船と出航

警　告

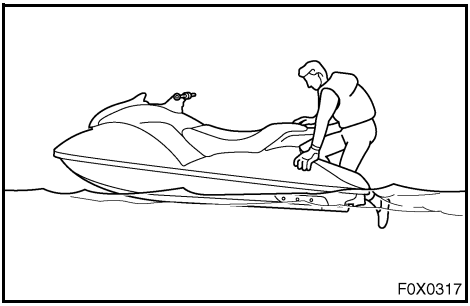
- 操船者と同乗者は深いところで乗船をする前に、浅瀬で乗船の練習を十分に行なってください。深いところでの再乗船を行なうためには、スキルや技量を必要とします。
- 深いところでは、何回試みてもマリンジェットに再乗船できないことがあります。疲労や怪我をしたり、溺れたりする危険性が増大します。


F0X0316

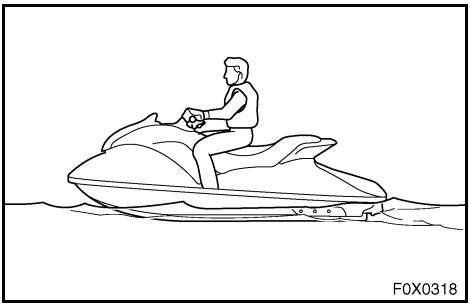
JJU15050

1 人で乗り込む場合

1. マリンジェットの後ろまで泳いでいき、両手を乗船プラットフォームに掛け、身体を引き上げます。そして片手でハンドグリップを掴みます。


F0X0317

2. 身体を引き上げ、プラットフォーム上に膝をつき、シートに移動して跨ります。


F0X0318

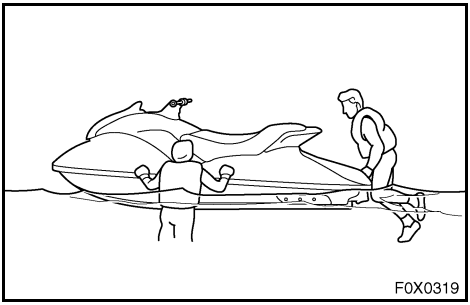
3. カールコードを左手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。
4. 両手でハンドルを握り両足をフットウェルフロアに乗せ、エンジンを始動して出航します。

警　告

出航する前には付近に船舶や障害物、遊泳者等がいないことを確認してください。

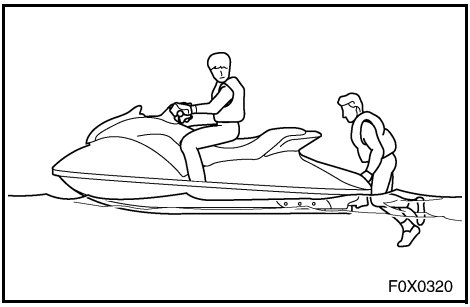
JJU15890

同乗者と乗り込む場合

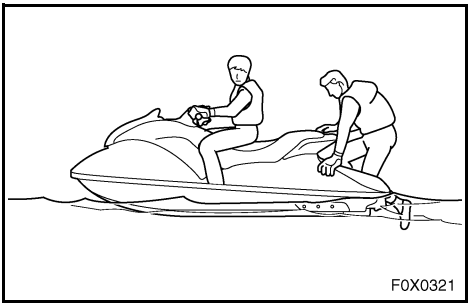

F0X0319

警　告

ジェットノズルからの強い噴流は危険です。下半身の身体開口部に噴流があたると怪我をする恐れがあります。同乗者がシートに座り、両足をフットウェルフロアに乗せて前の人にしっかりと掴まるまでスロットルを開けないでください。


F0X0320

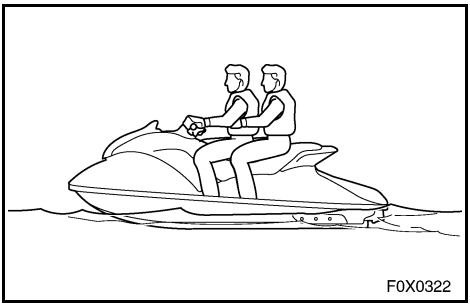
1. 操船者は前述の１人の場合と同じ方法でシートに跨ります。カールコードを左手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。
2. 同乗者はマリンジェット後ろ側に移動します。


F0X0321

3. 次に同乗者を乗船させ、シートに座らせます。

要　点

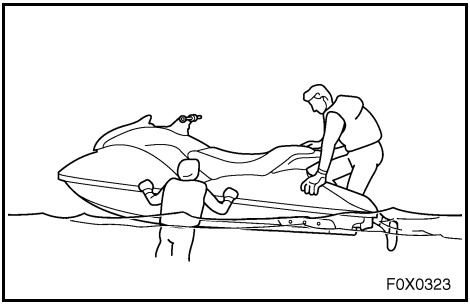
同乗者が乗船するときは操船者と同乗者でマリンジェットのバランスをとるようにしてください。

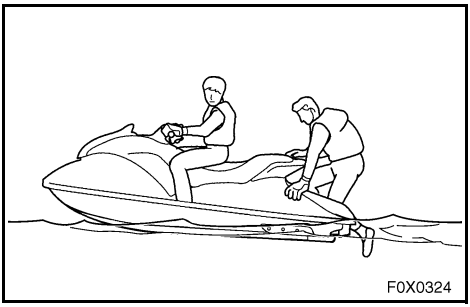

F0X0322

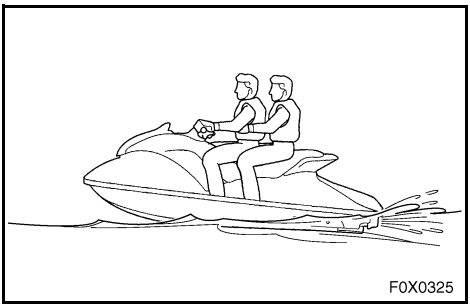
4. 操船者は、同乗者が両足をフットウェルフロアに乗せ、操船者にしっかりと掴まっていることを確認します。
5. エンジンを始動させ、周囲を確認して、所定の速度まで徐々に加速します。

警　告

出航する前には付近に船舶や障害物、遊泳者等がいないことを確認してください。





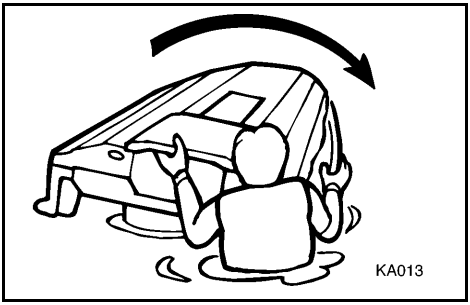


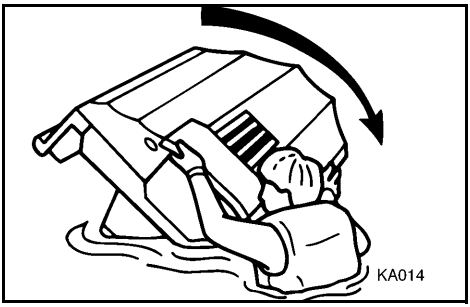
要　点

操船者と同乗者の合計体重が増すほど、マリンジェットのバランスを保つことが難しくなります。荷物などの重さを含めて総重量が160 kgを越えないようにしてください。

停止状態でマリンジェットのバランスがとりにくいときは、次にようにしてください。

1. 操船者が乗船する間は同乗者がマリンジェットの安定を保ってください。操船者は船尾より乗り込んでシートに座り、バランスを取ります。
2. 操船者はカールコードを左手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。
3. エンジンを始動してトローリング速度で運航します。
4. 同乗者はフロアまで身体を持ち上げて膝をつき、バランスをとります。シートまで身体を移動させます。操船者は周囲を見渡し、マリンジェットの加速を開始します。
5. 徐々に加速して更に安定したバランスをとります。





JJU20370

転覆したときには

マリンジェットが転覆した場合、損傷や負傷をしないために以下の手順を守ってください。

警　告

誤った引き起しをすると負傷する恐れがあります。

- 緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを外してください。
- ジェットインテーク（吸水口）には手を掛けないでください。
- マリンジェットの下敷きにならないように注意してください。

1. 緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを外します。
2. マリンジェットの船尾まで泳ぎ、左手でライドプレートを掴み、右手または足をガンネル（船縁）に掛けて押し下げながら時計回りに引き起します。必ず時計回りに引き起してください。

要　点

転覆したマリンジェットの左舷が上に傾いている場合は、最初にガンネル（船縁）に体重をかけてマリンジェットの左舷が下になるようにしてから時計回りに引き起してください。

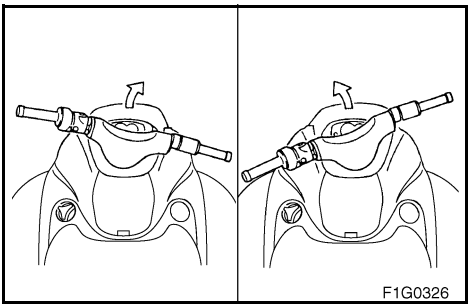
注　意

マリンジェットを反時計回りで引き起さないでください。水がエンジンに侵入して損傷の原因となります。

3. エンジンを始動し、マリンジェットを着岸させエンジンに不具合がないことを点検します。

⚠注 意

マリンジェットを 5 分以上転覆したままの状態にすると、空気が分離給油システムに入ることがあります。エアを抜くために、マリンジェットを正常の姿勢に戻し、10 分間エンジンを停止のまま放置あるいはトローリング速度で運転します。

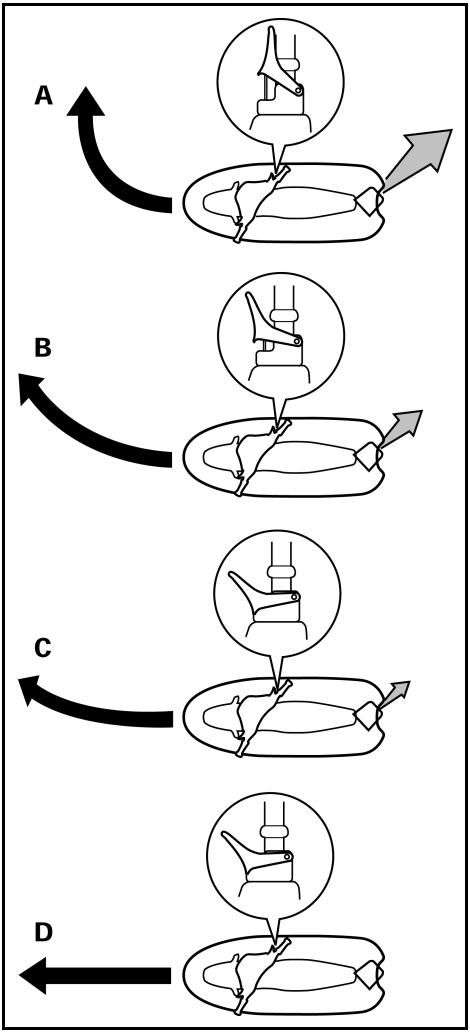


JJU20000

マリンジェットの旋回

旋回はスロットルとハンドル操作を併用して行ないます。

ジェットインテークから取り入れられた水がジェットポンプのインペラで加圧されます。加圧された水がジェットノズルから放出されることにより推進力を生み出し、マリンジェットを動かし、旋回させます。エンジン回転数が高いほど、より大きな推進力が生じます。



旋回半径は、ステアリングハンドルの切れ角度だけでなく、ジェット推進力の強弱によっても変化します。

A. スロットルが生み出す推進力が大きいほど、より鋭角的に旋回します。
B. スロットルが生み出す推進力が小さいほど、より緩やかに旋回します。
C. スロットルから完全に手を離すと推進力は最小になります。トローリング速度以上で航走しているとき、スロットルを戻してしまうと旋回能力は急激に低下します。スロットルから手を離した直後はまだある程度の旋回能力が残っていますが、一旦エンジン回転が落ちてしまうと、再度スロットルを開けるか、艇がトローリング速度に到達するまでマリンジェットはステアリングハンドル操作に反応しません。
トローリング速度で航走中は、トローリング回転の推進力のみでもステアリングハンドルを操作するだけで緩やかに旋回できます。
D. エンジンが停止すると推進力がなくなります。この場合、ステアリングハンドルを進みたい方向へ向けてもマリンジェットはそのまま直進します。

進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。

⚠警　告

- **障害物を避けるときはスロットルを戻さないで下さい。進路を変えるためにはスロットル操作が必要です。**
- **高速航走時は徐々に旋回を行なうか、または旋回前に速度を落としてください。高速で鋭角に旋回しようとすると、マリンジェットがスライド（横スベリ）したり、スピンしたりする要因になります。乗船者がマリンジェットから放り出され、負傷する可能性が高くなります。**

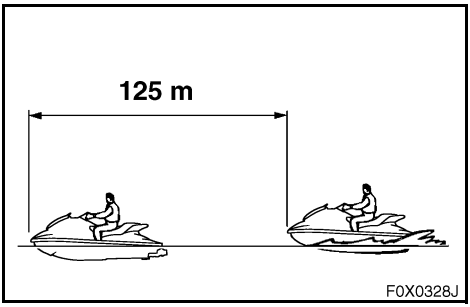
このモデルはオフ・スロットル・ステアリング・システム（OTS）を備えたヤマハ・エンジン・マネージメント・システム（YEMS）を採用しています。OTS はプレーニング状態でスロットルを放してステアリングを切ったとき（上記項目 C を参照ください。）に作動し、マリンジェットの減速中にも若干の推進力を与え続けることで旋回性の補助をします。旋回中にスロットルを開ければさらに急旋回をすることができます。OTS はエンジン停止状態またはプレーニングスピード以下では動作しません。

JJU15900

停船するときには

マリンジェットにはブレーキ装置が有りません。スロットルレバーを放したときに水の抵抗によって減速します。フルスピードからはスロットルレバーを全閉にして、エンジンを停止させてもマリンジェットは停船するまでに約 125 m ほど進みます。この停船距離は総重量、水面の状態、風向きによって異なりますので目安としてください。

マリンジェットはスロットルレバーを放すと減速しますが、完全に停船するまである程度の距離を航走します。障害物まで十分な停船距離（時間）がなく衝突する恐れのあるときは、スロットルレバーとハンドル操作で旋回して障害物を回避してください。



警　告

- 停船するときには十分な停止距離を確保してください。
- 早めに行動を起し衝突防止に努めてください。マリンジェットも一般の船舶同様にブレーキ装置は有りません。
- 控えめな安全速度で航走し、周囲の遊泳者、障害物、船舶等から十分な距離を保ち、余裕をもって停船できるようにしてください。
- 減速しているとき、進路上に船舶や障害物等が有る場合は、エンジン出力を使って回避する必要がありますので、エンジンは停止しないでください。

JJU15100

海岸に着岸するときには

1. 障害物、船舶、遊泳者等が海岸付近にいないことを確認してください。海岸から約 125 m のところでスロットルレバーを戻し、減速をはじめてください。
2. ゆっくりと岸に近づき着岸地点に来る前にエンジンを停止させます。エンジンが停止しているときは旋回できないことを忘れないでください。
3. マリンジェットから降りてマリンジェットを岸に引き上げます。

⚠注 意

小石、砂、海藻、その他のゴミがジェットインテーク（吸水口）に入るとインペラの損傷の原因となります。エンジンを止めて、着床する前にマリンジェットから降りてください。

JJU15110

桟橋に接岸するときには

1. 障害物、船舶、遊泳者等がマリンジェット付近にいないことを確認してください。桟橋から約 125 m 離れたところで速度を落とします。
2. ゆっくりと桟橋に近づき、接岸する直前にエンジンを停止させます。

JJU15130

波が荒いところでの操船

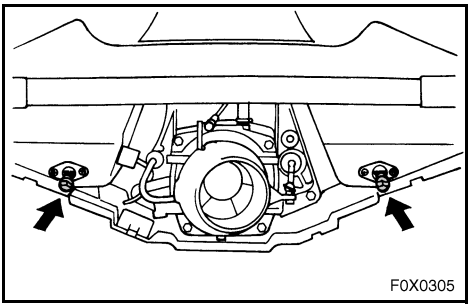
波が荒いところでの操船や波間のジャンプは、着水時にマリンジェットと操船者の両方に大きな衝撃がかかります。操船者の胸や顎をマリンジェット本体やハンドルに打ちつけて、負傷する恐れがあります。顎をハンドルの真上においたり、足を艇体の外に出した状態での操船はしないでください。また、艇体にひびが入ったり、中の部品を傷めたりする恐れがあります。波が荒いときや悪天候での使用は避けてください。

JJU20380

使用後のお手入れ

マリンジェットを使用した後、必ず以下のお手入れを実施してください。

1. マリンジェットを陸揚げします。
2. 水道水で艇体、ステアリングハンドル、ジェットユニットを洗浄します。
3. シートを取り外し、エンジンルームを点検します。溜っている水を排出するときは、船尾ドレンプラグを外し、ビルジに溜った水が全て排出されるようにマリンジェットの船首部分を持ち上げます。



要　点

このマリンジェットにはジェット負圧式ビルジ排出装置と電動ビルジ排出装置がついています。これらにより航走中にエンジンルーム内に溜ったビルジが排出されます。しかし多少のビルジが残るため、2 個のドレンプラグを取り外して排出する必要があります。（ビルジの排出方法については、3-8 ページを参照ください。）

4. マリンジェットを水平に置きます。
5. 冷却系統が塩分、砂、ゴミなどで目詰まりしないように冷却系統を水道水で洗浄します。（冷却系統の水洗手順については 4-1 ページを参照ください。）
6. 10 ～ 15 秒間 4,000 r/min で運転を行ない、冷却系統に残っている水を排出します。

⚠警　告

陸上では、艇の後ろに人が居るときは、エンジンを始動させないでください。熱水や蒸気が排気口から吹き出して火傷をする恐れがあります。

⚠注　意

陸上では4,000 r/min以上でエンジンを運転しないでください。触媒装置が損傷する恐れがあります。

7. マリンジェットを1週間以上保管する場合は防錆処理のためにエンジン内部を潤滑します。（潤滑方法については 4-3 ページを参照ください。）

⚠警　告

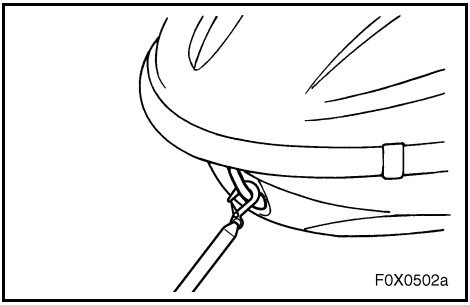
エンジンが熱いときは、可燃性の防錆剤を吹きつけないでください。
火災を起す恐れがあります。

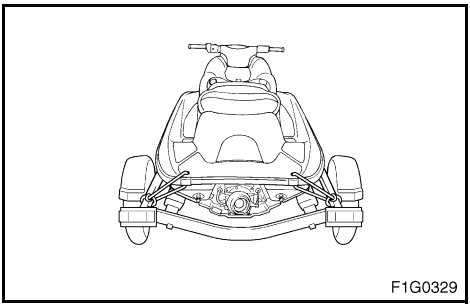
8. 少量の水でエンジンやエンジンルームを水洗いします。

⚠注　意

高圧の水でエンジンルームを洗浄しないでください。重大な損傷の原因となります。

9. 乾いた布でエンジンとエンジンルームを拭きます。（必要であればステップ 3 を繰り返します。）
10. 艇体、ステアリングハンドル、ジェットユニットを乾いた布で拭きます。
11. 腐食を防止するために、金属部品に防錆剤をスプレーします。
12. シートを取り付ける前に、エンジンルームを外気にあて完全に乾燥させます。





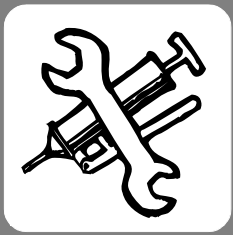
JJU20390

運搬

マリンジェットをトレーラに積んで運ぶときは、バウアイと船尾のロープホールを使ってロープまたは固定器具でトレーラに固定します。

⚠注　意

ロープや固定器具はシートに直接かからないようにしてください。シートの表面が傷付きます。また傷や破損を防止するために、ロープや固定器具がマリンジェット本体に接する箇所にはタオル等の適当な保護具を当ててください。



JJU15160

整備と調整

保管の手順 4-1
冷却系統の洗浄 4-1
潤滑 4-3
燃料系統 4-3
バッテリ 4-5
掃除 4-6
点検整備と調整 4-7
取扱説明書と工具セット 4-8
定期点検表 4-9
燃料系統の点検 4-10
分離給油システムの点検 4-11
ステアリング切れ角の点検 4-12
スロットルケーブルの点検と調整. . . 4-12
スパークプラグの清掃と調整. 4-13
ヤマハ・パワー・バルブ・システム
（YPVS）の点検 4-14
グリスポイント 4-15
バッテリの点検 4-17
燃料噴射装置の調整 4-19
ヒューズの交換 4-20
オイルポンプのエア抜き 4-20
ヤマハ・アジャスタブル・
スポンソン（YAS）の調整. 4-21
仕様諸元 4-22

JJU17591

保管の手順

⚠警　告

マリンジェットを保管する場合は、水平に置いてください。ガソリンが漏れてエンジンやエンジンルーム内に入って火災を起こす恐れがあります。

冬場など長期間にわたってマリンジェットを保管する場合は、劣化防止のための整備が必要です。保管の前にヤマハ取扱店による格納整備を受けることをお奨めします。ただし次に説明する作業は簡単なツールを使ってご自身で行なうことができます。

JJU19910

冷却系統の洗浄

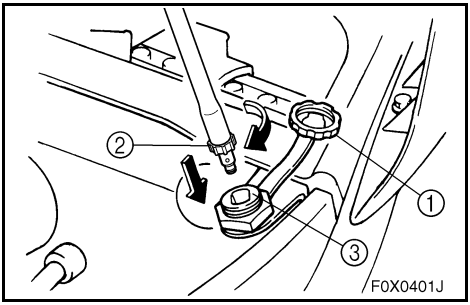
塩、砂、ゴミなどによるエンジン冷却経路の目詰まりを防止するために洗浄が必要です。

⚠警　告

陸上では艇の後ろに人が居るときは、エンジンを始動させないでください。熱水や蒸気が排気口から噴き出して火傷をする恐れがあります。

⚠注　意

- エンジンが停止しているときは絶対に冷却経路に水道水を供給しないでください。水がマフラからエンジン内部に逆流して、重大なエンジンの損傷をまねく恐れがあります。
- エンジン冷却経路へ水道水を供給せずに 15 秒以上エンジンを運転しないでください。オーバヒートを起す恐れがあります。
- 陸上ではエンジンを 4,000 r/min 以上で運転しないでください。触媒装置が損傷する恐れがあります。



1. 陸上にて、船首が下がらないように艇体を安定させせます。
2. キャップ ① を開けます。水道水ホースアダプタ ② を水洗ホースコネクタ ③ に押し込み、固定されるまで回します。
3. 水道水ホースアダプタと水道の蛇口をホースで接続します。
4. エンジンを始動させます。始動後はただちに、冷却水点検孔から水が連続的に出はじめるまで蛇口を徐々に開けます。
5. トローリング回転数でエンジンの運転状態を見ながら約 3 分間運転します。
   もし途中でエンジンが止まったときは、ただちに水道水の供給を止めます。再び上記手順どおりに行ないます。
6. 蛇口を閉めた後、10～15秒間4,000 r/min で運転を行ない、冷却経路に残っている水を排出します。
7. エンジンを停止させます。
8. 水道水ホースアダプタを取り外し、キャップを確実に取り付けます。

JJU20400

潤滑

警　告

エンジンが熱いときは、可燃性の防錆剤を吹きつけないでください。
火災を起す恐れがあります。

1. スパークプラグを取り外し、スプーン約1 杯分のオイルをスパークプラグ孔から各シリンダに注入します。
2. スパークプラグのネジ部にグリスを塗布し、スパークプラグを元のように取り付けます。
3. スパークプラグキャップを外した状態で、エンジン始動スイッチを使って 3 秒間クランキングさせます。
4. スロットル、ステアリングなどのケーブル類全てに潤滑剤を塗布します。
5. 「点検整備と調整」の「グリスポイント」を参照し、マリンジェットの各部にグリスを塗布します。

JJU20410

燃料系統

警　告

ガソリンは高い引火性と爆発性があります。

- 給油中はタバコを吸わないでください。また、他の火気を近づけないでください。
- 給油はエンジンを停止してから行なってください。
- 給油はマリンジェットを水平に保ち、換気の良い場所で行なってください。
- マリンジェットに乗船したまま給油しないでください。
- ガソリンをこぼさないように十分注意を払ってください。こぼれたときはただちに乾いた布で拭き取ってください。ガソリンがしみこんだ布は安全な場所で焼き捨てるなどして処分してください。

- 燃料タンクへは規定容量以上給油しないでください。燃料は温度上昇とともに膨張して溢れる恐れがあります。給油は燃料タンクと給油チューブの接続部までとしてください。燃料タンクが満タンの状態で、マリンジェットを直射日光の下に放置しないでください。マリンジェットを水平に保ち、換気の良い場所に置いてください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。
- 飲み込んだり、目に入ったり、または揮発蒸気を多量に吸い込んだ場合は、ただちに医者の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、ただちに石鹸等を使って洗い流してください。衣類に付着した場合は着替え等を行なってください。

⚠注　意

Fuel Stabilizer and Conditioner を必ずご使用ください。他の燃料安定剤を使用した場合は、触媒装置に大きな損傷を与える恐れがあります。

F1B40037

燃料タンクを新しいガソリンで満たし、ヤマハ純正燃料安定剤を加えておきます。ガソリン 1 L に対して約 8 mL（満タンの場合約 470 mL）の燃料安定剤を加えてください。

推奨燃料安定剤：
Fuel Stabilizer and Conditioner
（ヤマハ純正）

部品番号：Q4T-YSK-001-026
（12 oz.：約 355 mL）

JJU19760

バッテリ

マリンジェットを 1ヶ月以上使用しないときは、先に（−）バッテリケーブル、次に（+）ケーブル、ブリーザパイプを外してバッテリを取り出します。

水道水を使ってバッテリのケースを清掃します。電極端子部分に汚れや腐食が見られたら、ワイヤブラシ等を使ってバッテリケーブルとの接触面をよく磨きます。

補充電を行なってから、涼しく暗い場所で保管をします。バッテリ電極端子部分にはヤマハグリス A を塗布します。

バッテリは保管中も自己放電しますので、少なくとも 2ヶ月に一度は定期的に補充電を行なってください。

警　告

ブリーザホースはバッテリに確実に取り付けてください。ブリーザホースが損傷していたり、折れ曲がっていたり、確実に取り付けられていない場合、火災や爆発の恐れがあります。

注　意

バッテリを補充電せずに放置すると、使用できなくなる恐れがあります。定期的に補充電を行なってください。

要　点

バッテリの状態はバッテリ液の比重を測ることで判りますが、バッテリ電極端子間の電圧を測ることでも、バッテリの状態を概ね知ることが出来ます。電圧が 12V 未満の場合は補充電を行なってください。

バッテリ液の比重（参考値）：
1.28（20 ℃）

比重の測定や補充電等はヤマハ取扱店、バッテリの取扱店等で行なうことをお奨めいたします。ご自身でこれらの作業を行なう場合は、機器の使用説明書をよく読んでから行なってください。

JJU15220

掃除

マリンジェットを長期間保管するときは掃除をします。

1. 艇体、ハンドル、ジェットポンプを水道水で洗います。
2. エンジンやビルジ溜りを水道水ですすぎます。水を全て排水して残っている水はきれいな乾いた布で拭き取ります。
3. エンジン外部に防錆剤（ヤマハマリンガード：90790-74008）と潤滑油をスプレーしておきます。

警　告

エンジンが熱いときは、可燃性の防錆剤を吹きつけないでください。
火災を起す恐れがあります。

4. 艇体部はヤマハボートワックス（部品番号:90790-74013 固形 300 g/90790-74014 液体 500 ml）などを使って磨きます。
5. シートなどのビニール、その他のゴム部分は全て中性洗剤を使って拭きます。

JJU15230

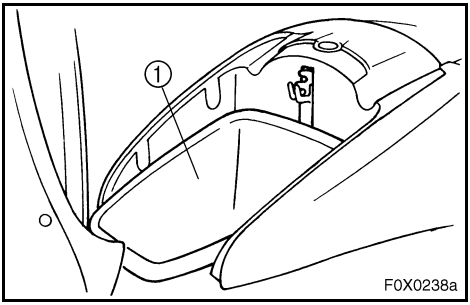
点検整備と調整

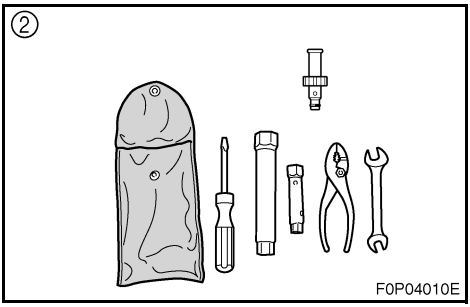
所有者は定期的な点検、調整、給脂を行なうことにより、マリンジェットをいつも安全で良好な状態に保つよう心掛ける必要があります。点検、調整、給脂（潤滑）等については次ページ以降に説明いたします。

補修部品が必要なときは、ヤマハ純正部品もしくは同等品を使用してください。ヤマハ純正部品と質的に同等でない部品や付属品を取り付けたために生じた故障は、保証の対象とはなりませんのでご承知おきください。

警　告

- 整備作業中は特別に指示があるとき以外は、必ずエンジンを停止してください。可動部品への接触や感電などにより負傷する恐れがあります。所有者がマリンジェットの整備についてよく判らないときは、ヤマハ取扱店に整備を依頼してください。整備上のミスは正常な作動を阻害し、事故につながる可能性が高くなります。
- 改造はマリンジェットの性能低下や騒音の原因となるとともに、使用上の安全性が失われる恐れがあります。何らかの部品交換や取り付けをする場合は事前にヤマハ取扱店に相談してください。





JJU15240

取扱説明書と工具セット

マリンジェットを使用するときは常に取扱説明書と工具セットを携行することをお奨めします。マリンジェットには取扱説明書や工具セットを格納するための物入れ ① が用意されています。

要　点

取扱説明書等は水で傷めないように防水袋に入れておくことをお奨めします。取扱説明書が傷んだときには、ヤマハ取扱店を通じて入手することができます。

本書には所有者ご自身で行なえる点検整備の方法が記載されています。附属の工具セット ② だけでも十分ですが、ナットおよびボルトを正しく締め付けるためにはこの他にトルクレンチ等も必要となります。

JJU17620

定期点検表

点検整備作業の間隔は使用状態によって異なりますが、下表には一般的な目安が記載されています。

（●）の印は所有者が自分でできる点検であることを意味します。

（❍）の印はヤマハ取扱店が行なう作業であることを意味します。

項目	作業間隔 / 作業内容	購入初年度			次年度以降		参照ページ
		10 時間	50 時間（6ヶ月）	100 時間（12ヶ月）	100 時間毎（12ヶ月毎）	200 時間毎（24ヶ月毎）	
スパークプラグ	点検 / 清掃 / 調整	●	●	●	●		4-13
グリスポイント	グリス塗布			●	●		4-15
中間ハウジング	グリス注入	❍*1		●*2	●*2		4-16
燃料系統	点検			❍	❍		4-10
燃料タンク	点検 / 清掃			❍	❍		4-11
分離給油システム	点検 / 清掃	❍				❍	4-11
スロットルシャフト	点検			❍	❍		—
冷却水通路	清掃 / 水洗	●*3					4-1
冷却水ストレーナ	点検 / 清掃			❍	❍		—
ビルジストレーナ	清掃			❍	❍		—
電動ビルジストレーナ	点検 / 清掃			❍	❍		—
インペラ	点検			❍	❍		—
ステアリング切れ角	点検 / 調整			●/❍	●/❍		4-12
QSTS	点検 / 調整	❍		❍	❍		—
スロットルケーブル	点検 / 調整	❍		❍	❍		4-12
ドレンプラグ	点検 / 交換			❍	❍		3-9
バッテリ	点検			❍	❍		4-17
ラバーカプリング	点検					❍	—
マウントラバー	点検					❍	—
ボルトおよびナット類	点検	❍		❍	❍		—
YPVS	作動確認 点検 / 調整	❍		❍	❍		4-14

*1: グリス量 ＝ 33.0 ～ 35.0 cm^3
*2: グリス量 ＝ 6.0 ～ 8.0 cm^3
*3: 使用後毎回

JJU17630

燃料系統の点検

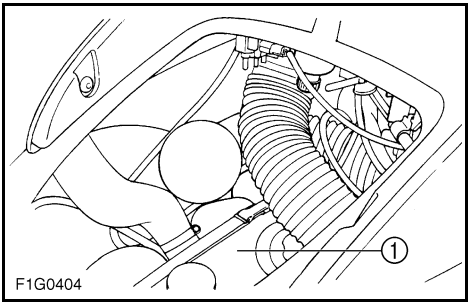
警　告

ガソリンは高い引火性と爆発性があります。燃料漏れの点検修理を怠ると火災や爆発の原因となる恐れがあります。
火災や爆発は死傷の要因になります。エンジンは必ず停止させてください。タバコは吸わないでください。ガソリンはこぼさないように扱ってください。
ホース内の燃料は高圧になっています。燃料系統が外れると、燃料が吹き出して火災や爆発の原因となる恐れがあります。
燃料系統が外れた状態でエンジンを運転しないでください。

燃料系統からの漏れ、損傷、劣化などを点検します。不具合が見つかったときはヤマハ取扱店にご相談ください。

点検箇所：

- 燃料タンク内への水の混入、またはゴミの有無
- 燃料タンクキャップ（パッキン）の損傷
- 燃料タンクからの燃料漏れ
- 燃料ホース継ぎ目からの燃料漏れ
- 燃料ホースの損傷
- エア抜き経路からの燃料漏れ



JJU15280

燃料タンク

燃料系統への水の混入等により燃料タンク ① を清掃するときは、ヤマハ取扱店に整備を依頼してください。

JJU15290

分離給油システムの点検

分離給油システムからのオイル漏れ、損傷、劣化を点検します。不具合が見つかったときは、必要に応じて修理交換をします。修理交換が必要な場合はヤマハ取扱店にご相談ください。

点検箇所：

- オイルタンクの破損
- オイルタンク内への水の混入、またはゴミの有無
- オイルポンプからの漏れ
- オイルホースとその継ぎ目からの漏れ
- オイルフィルタの目詰まり

JJU15300

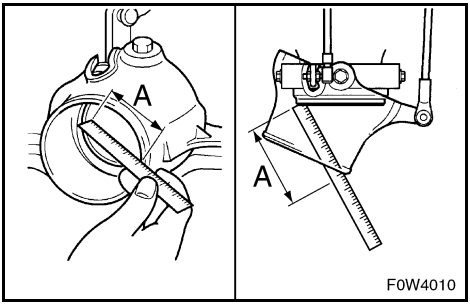
オイルタンク

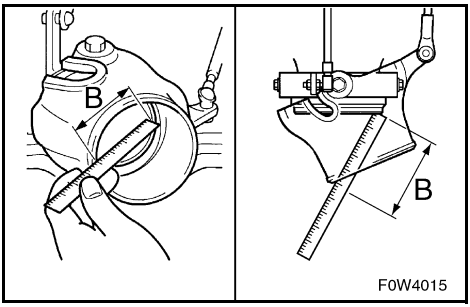
オイルタンクの破損、割れ、およびオイルホースとその継ぎ目からの漏れを点検します。オイルタンクの掃除が必要な場合、または水やゴミが混入している場合は、ヤマハ取扱店に整備を依頼してください。

JJU20420

オイルフィルタ

オイルタンクに十分なオイルが残っているにもかかわらずオイル警告が作動したときは、オイルフィルタの詰まりが考えられます。オイルフィルタを点検するときは、ヤマハ取扱店に整備を依頼してください。





JJU19450

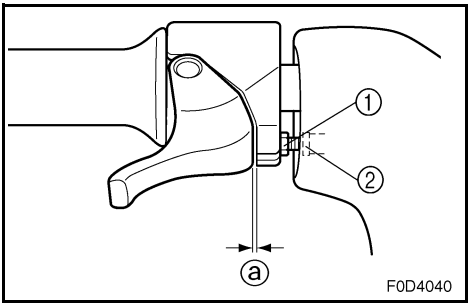
ステアリング切れ角の点検

ハンドルおよびジェットノズルが滑らかに作動するかどうかを点検します。

ハンドルを左右いっぱいに（ロックからロック位置まで）向けたとき、ジェットノズルとリフレクタまでのそれぞれの距離AとBの差が規定値内にあることを確認してください。

AとBの距離の差：5 ㎜以内

ステアリングが固いとき、あるいは調整不良のときはヤマハ取扱店に整備を依頼してください。



JJU15340

スロットルケーブルの点検と調整

スロットルレバーの操作を繰り返し、放したときにもとの設定位置まで滑らかに戻ること、遊びが規定値内にあることを確認します。

1. スロットルレバーを軽く握ったり離したりします。滑らかに戻らない場合はヤマハ取扱店に整備を依頼してください。
2. スロットルバーの遊び ⓐ はロックナット ① を緩め、遊びが規定値内に収まるようにアジャスタ ② を回して調整してください。

スロットルレバーの遊び ⓐ: 4 ～ 7 ㎜

JJU15361

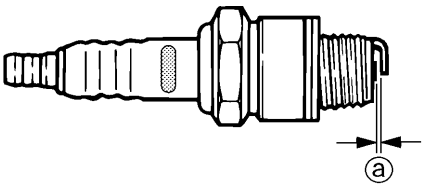
スパークプラグの清掃と調整

スパークプラグはエンジンの重要な構成部品の一つで、容易に点検することができます。スパークプラグの状態でエンジンの状態もある程度判ります。例えば中心電極の碍子部分が白いときはそのシリンダの吸気漏れまたは気化に問題がある可能性があります。そのような場合は自分で診断しようとせずに、ヤマハ取扱店にご相談ください。

熱やカーボン付着によってスパークプラグは次第に劣化や消耗するため、定期的に取り外して点検してください。電極の消耗、あるいはカーボン等の付着がひどい場合は、新しいスパークプラグと交換してください。

標準スパークプラグ :NGK BR8ES-11

隙間ゲージを使ってスパークプラグの電極の隙間を測定します。必要な場合は交換または隙間を調整します。



F0D4060

電極の隙間 ⓐ:1.0 ～ 1.1 mm

スパークプラグの取り付け：

1. ガスケット面を清掃します。
2. スパークプラグネジ部のゴミを拭き取ります。
3. 規定トルクで締め付けます。

スパークプラグの締め付けトルク： 25 N・m (2.5 kgf・m)

要 点

- スパークプラグキャップを取り付ける前にはスパークプラグの表面やキャップ内側の水分を必ず拭き取ってください。奥まで押し込み、確実に取り付けられているか確認します。
- スパークプラグを取り付けるときにトルクレンチが無い場合は、まず指でしっかりと締め込み、そこから更に 1/4 から 1/2 回転させるとほぼ正しいトルク（新品のスパークプラグ使用時）が得られます。その場合もできるだけ早くトルクレンチを使用して正規トルクで締め付けてください。

警 告

スパークプラグの脱着は碍子部分を破損させないように注意して行なってください。碍子が破損すると漏電の原因となり爆発や火災の要因となる恐れがあります。

JJU20680

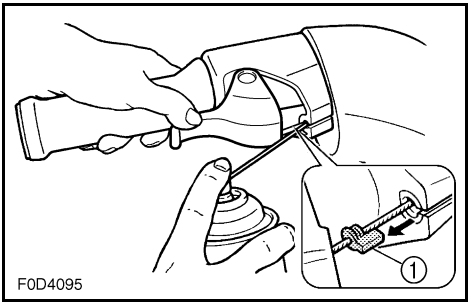
ヤマハ・パワー・バルブ・システム（YPVS）の点検

ヤマハ・パワー・バルブ・システム（YPVS）は、排気ポートの可変バルブを作動させ、エンジン性能および効率を向上させる働きをします。YPVS バルブはコンピュータ制御されたサーボモータにより、エンジン回転数に応じて調節されます。

YPVS はエンジンの重要な部分であり、調整には非常に高度な技術と知識が必要とされます。点検・調整をする際はヤマハ取扱店に依頼してください。

注 意

YPVS は工場出荷時に適切な状態に調整されています。技術的な知識なしにセッティングを変更すると、エンジンの性能低下や損傷の原因となります。

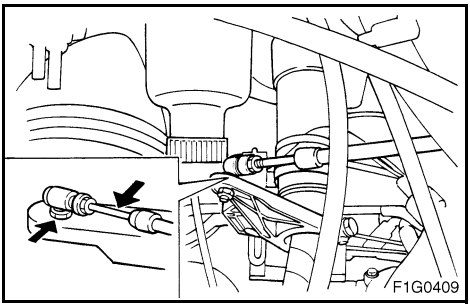


JJU20430

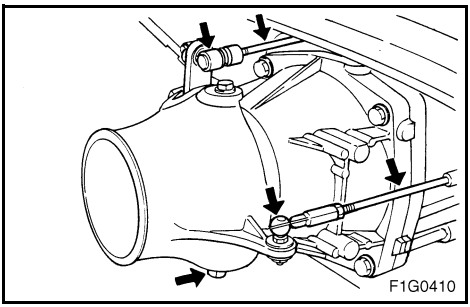
グリスポイント

可動部分の摺動や回転を滑らかにするためにヤマハグリス A（部品番号 : 90890-69910）または同等品を塗布、注入します。

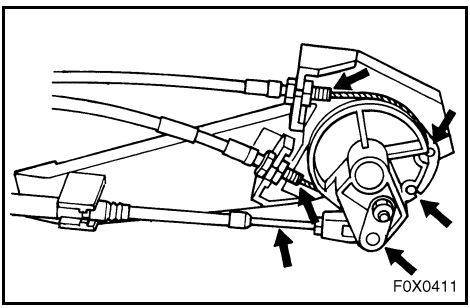
- スロットルケーブル（ハンドル側）
  スロットルレバーを引いてシール ① を取り外します。スロットルケーブルの内側に防錆剤（マリンガード　部品番号：90790-74008）をスプレーして、シールをもとのように確実に取り付けます。



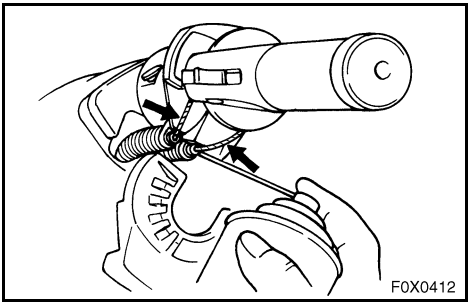
- ステアリングケーブル（ハンドル側）



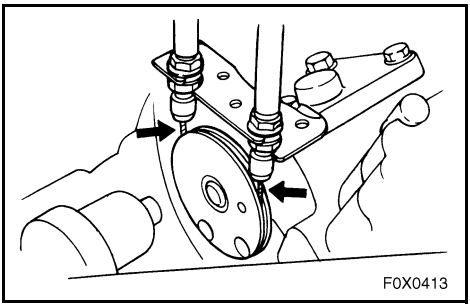
- ステアリングケーブル（ノズル側）
- ノズルピボットシャフト
- QSTS ケーブル（ノズル側）



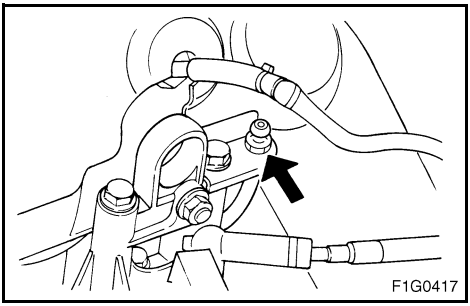
- QSTS ケーブル（プーリ側）



● QSTS ケーブル（ハンドル側）
QSTS ケーブルのカバーを外します。
QSTS アウターケーブルの内側に防錆剤をスプレーします。



● YPVS ケーブル



● 中間ハウジング
グリスガンを使ってグリスニップルより規定容量のグリスを注入します。

グリス注入量：
初回点検時 33 ～ 35 cm^3
100 時間（6ヶ月）毎点検時 6 ～ 8 cm^3

JJU19781

バッテリの点検

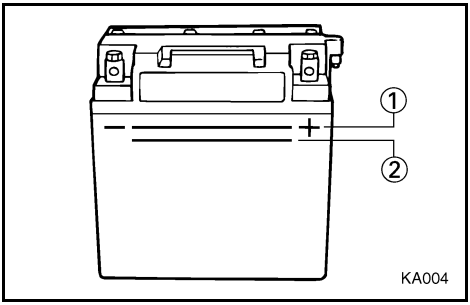
バッテリ液のレベルを点検し、リードが確実に締まっているかを確認します。

警　告

- バッテリ取り扱い上のご注意
  バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので取り扱いを誤ると爆発し怪我をすることがあります。
  火気厳禁＝ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。
  補充電は風通しの良いところで行なってください。
  落下等の強い衝撃を加えないでください。
  バッテリ液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。
  子供の手の届くところに置かないでください。
  応急手当
  万一、バッテリ液が皮膚、衣服に付着したときはただちに大量の水で洗い流してください。
  目に入ったときはただちに大量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。
- ブリーザホースはバッテリに確実に取り付けてください。ブリーザホースが損傷していたり、折れ曲がっていたり、確実に取り付けられていない場合、火災や爆発の恐れがあります。

注　意

バッテリを横にしないようにしてください。
バッテリ液の補充や補充電を行なうときは、必ずバッテリを船内から取り出してください。



バッテリ液の補充：

1. バッテリ液の液面が上限マーク ① と下限マーク ② の間に有ることを確認します。
2. 必要に応じて、蒸留水を補充します。

⚠注　意

通常の水道水にはバッテリに有害なミネラル類が含まれていますので補充には必ず蒸留水を使用してください。

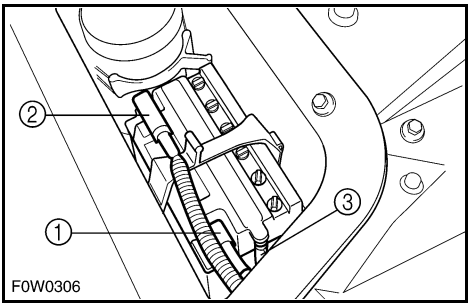
補充電：

⚠注　意

急速充電は行なわないでください。バッテリの寿命を縮める原因となります。

補充電はヤマハ取扱店、バッテリの取扱店等で行なうことをお奨めいたします。ご自身でこの作業を行なう場合は、充電機器の使用説明書をよく読んでから次の点に注意して行なってください。

1. 全てのバッテリキャップを取り外します。
2. バッテリ液量が少ない時は、液面が所定の位置になるまで蒸留水を補充します。
3. 充電電流を 1.9 アンペア程度にして、各セルからガスが盛んに発生をし続けるまで時間をかけて充電を行ないます。



バッテリ端子の接続：

1. バッテリをマリンジェットに取り付けるときは必ず各端子の接続が正しくされていることを確認します。
2. ブリーザパイプが正しく接続され、損傷や詰まりのないことを確認します。
3. バッテリが所定の場所に確実に固定されていることを確認します。

① （+）線（赤）
② （−）線（黒）
③ ブリーザパイプ

JJU17681

燃料噴射装置の調整

燃料噴射装置は、工場出荷時に適切な状態に調整されています。もし不具合が生じた場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

⚠注　意

ご自分で調整をしないでください。技術的な知識なしにセッティングを変更すると、エンジンの性能低下や損傷の原因となります。

JJU17690

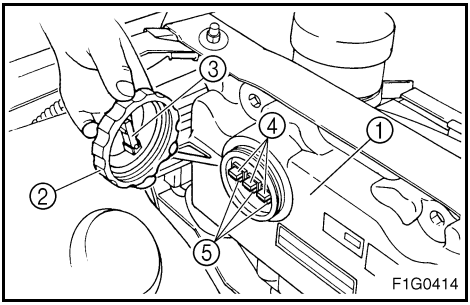
トローリング回転数（エンジン最低回転数）

1. マリンジェットを水面に浮かべます。
2. エンジンを始動し十分に暖機運転を行ないます。製品に装備されたタコメータを使用して、トローリング回転数を測定します。

トローリング回転数：
約 1,250 ～ 1,450 r/min

要　点

トローリング回転数が著しく高いまたは低い場合は、ヤマハ取扱店に調整を依頼してください。



JJU17700

ヒューズの交換

ヒューズは電装ボックス ① の中に有ります。

ヒューズを交換する場合：

1. キャップ ② を取り外します。
2. キャップの裏にある付属工具 ③ を使用して、ヒューズ ④ を同容量の予備のヒューズ ⑤ と交換します。

ヒューズの容量：
20 A（主電源）
3 A（メータ）
3 A（ビルジポンプ）

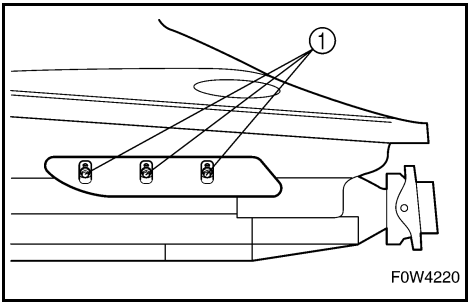
警 告

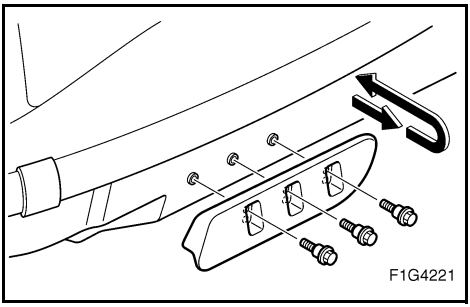
容量の異なるヒューズは使用しないでください。容量が異なるヒューズを代用すると電気系統全体の破損や火災の原因となります。

JJU15430

オイルポンプのエア抜き

オイルタンクが完全に空になったり、オイルポンプの接続ホースを取り外した場合、オイルポンプのエア抜きが必要になります。その際はヤマハ取扱店にご依頼ください。





JJU15951

ヤマハ・アジャスタブル・スポンソン（YAS）の調整

操船者の能力や航走状況に合せ、より適切な艇体特性に調整することができます。（2-21 ページのヤマハ・アジャスタブル・スポンソンを参照ください。）

YAS の調整：

1. 取り付けボルト ① を外します。
2. スポンソンを外して、新しい場所に入れ直します。

要　点

両方のスポンソンが同じ高さになる様に気をつけてください。

3. ボルトを規定トルクで締めつけて、スポンソンを固定します。

規定トルク：
18 N・m（1.8 kgf・m）

JJU17710

仕様諸元

項目 ＼ 機種名	単位	MJ-GP1300R
艇体許容量		
定員	名	2
最大積載量	Kg	160
寸法		
全長（LOA）	m	2.93
全幅（BOA）	m	1.15
全高（DOA）	m	1.02
船の長さ（LR）	m	2.51
船の幅（BR）	m	1.05
船の深さ（DR）	m	0.43
乾燥重量 *1	Kg	297
性能		
最大出力	KW(PS) @ r/min	115.0(156) @ 7,000
燃料消費量	L/Hr	63
航続時間（全開時）	Hrs	1.0
トローリング回転数	r/min	1,250 ～ 1,450
エンジン		
エンジン種別		2 サイクル
シリンダ数		3
総排気量	cm^3	1,297
内径×行程	mm	84 × 78
圧縮比		5.9 : 1
潤滑方式		分離給油
冷却方式		水冷
始動方法		電動スタータ
点火方式		デジタル CDI
スパークプラグ		BR8ES-11（NGK）
電極隙間	mm	1.0 ～ 1.1
バッテリ容量	V-AH	12 - 19
発電方式		フライホイールマグネト
ドライブ		
推進方法		ジェットポンプ
ジェットポンプ形式		軸流一段式
インペラ回転方向		左（後ろから見て）
インペラ駆動伝達方式		エンジン直結
ステアリング（ノズル）切れ角度	°	23 + 23
トリム（ノズル）角度	°	-5,0,5,10,15
燃料とオイル		
推奨燃料		無鉛レギュラーガソリン
推奨エンジンオイル		YAMALUBE 2-W（ヤマルーブ 2-W）*2 に限る。
燃料タンク容量	L	60
エンジンオイル容量	L	5.5

*1 燃料、オイル等を除く
*2 YAMALUBE 2-W は、このモデル専用に開発されており、ヤマハ取扱店にてお求めできます。

－メモ－

JJU15450

万一トラブルが起こったら

トラブルシューティング（故障診断）. . . 5-1
故障診断表 5-1
緊急時の対応方法 5-3
ジェットインテーク（吸水口）と
インペラの掃除 5-3
ブースタケーブルの使用 5-5
マリンジェットの曳航 5-7
水没時の処置 5-8

JJU15460

トラブルシューティング（故障診断）

万一故障などのトラブルが発生したときには、この故障診断表に従って点検してください。もし故障原因が見つからない場合や処置手順、部品交換手順が本書に記載されていない場合はヤマハ取扱店へご相談ください。

JJU17720

故障診断表

推定原因とその処置内容を確認してから参照ページを見て処置してください。

故障	推定原因		処置内容	参照ページ
エンジンが始動しない	スタータモータが作動しない			
	緊急エンジン停止スイッチ	ロックプレートが外れている	ロックプレートを取り付ける	2-7
	ヒューズ	溶断	配線を点検してヒューズを交換する	4-20
	バッテリ	容量低下	充電する	4-17
		端子接続不良	締め付ける	4-17
		端子の腐食	清掃する	4-5
	始動回路	不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	警告装置	オーバヒートモード	エンジンを冷却する	2-12
	スタータモータは作動する			
	スロットルレバー	スロットルレバーを握っている	スロットルレバーを放す	2-7
	燃料	燃料が無い	給油する	3-3
		燃料が古い、または汚れている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	4-10
	燃料タンク	水やゴミが混入している	ヤマハ取扱店で整備を受ける	4-11
	スパークプラグ	汚損または不良	清掃または交換	4-13
	スパークプラグキャップ	取り付け不良	正しく取り付ける	4-13
	クランクケース	水が充満している	プラグを外したままスタータモータを作動（クランキング）し、排水する	5-8
	燃料噴射装置	燃料ポンプ不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	水温センサ	不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—

故障	推定原因		処置内容	参照ページ
エンジンの回転にムラがある、あるいは停止する	燃料	燃料が無い	給油する	3-3
		燃料が古い、または汚れている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	4-10
	燃料タンク	水やゴミが混入している	ヤマハ取扱店で整備を受ける	4-11
	スパークプラグ	汚損または不良	交換する	4-13
		プラグ熱価不適当	交換する	4-13
		電極の隙間が不適当	調整する	4-13
	スパークプラグキャップ	キャップの取り付け不良	正しく取り付ける	4-13
		キャップの損傷	交換する	—
	電気配線	接続不良	締め付ける、または正しく接続する	—
	燃料噴射装置	インジェクタの不良または目詰まりしている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
メータの警告表示が点灯する	燃料残量	燃料が無い	給油する	3-3
	エンジンオイル残量	オイルが無い	ただちに給油する	3-5
		オイルフィルタが目詰まりしている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	4-11
	エンジンのオーバヒート	ジェットインテーク（吸水口）が目詰まりしている	掃除する	5-3
		水温センサ不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	電圧表示	電圧低下	充電する。配線接続部を確認する	4-17
	排気温度	触媒装置の過熱	エンジンを冷やす	2-13
	チェックエンジン警告	センサ類の不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
エンジンの回転数が低すぎる、あるいは推進力が弱い	キャビテーション	ジェットインテーク（吸水口）が目詰まりしている	掃除する	5-3
		インペラ損傷または摩耗	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	エンジンのオーバヒート	ジェットインテークが目詰まりしている	掃除する	5-3
	スパークプラグ	汚損または不良	交換する	4-13
		プラグ熱価不適当	交換する	4-13
		電極間の隙間が不適当	調整する	4-13
	スパークプラグキャップ	キャップの取り付け不良	正しく取り付ける	4-13
	電気配線	接続不良	締め付ける、または正しく接続する	—
	燃料	燃料が古い、または汚れている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	4-10
	ビルジ	水が溜っている	排水する	3-9

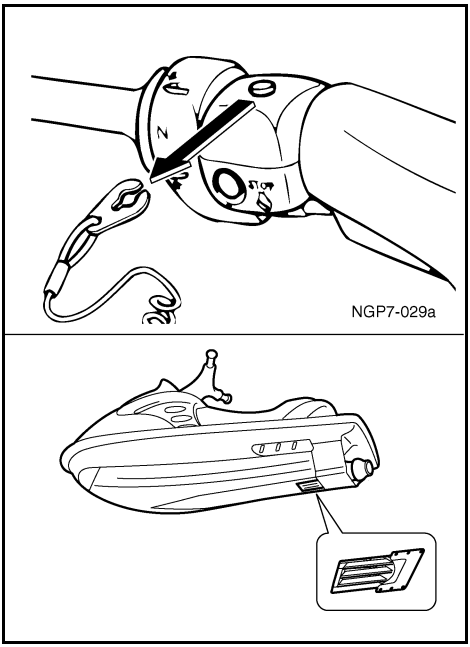
JJU15480

緊急時の対応方法

JJU15490

ジェットインテーク（吸水口）とインペラの掃除

海藻やゴミなどがジェットインテーク（吸水口）やインペラに詰まると、エンジン回転数を上げても推進力は増大しません。このまま運転を続けるとエンジンがオーバヒートして焼き付きを起す恐れがあります。海藻やゴミなどが目詰まりしていると思われるときは、マリンジェットを岸に引き上げてジェットインテークとインペラを点検してください。マリンジェットを岸に引き上げる前に必ずエンジンを停止させてください。



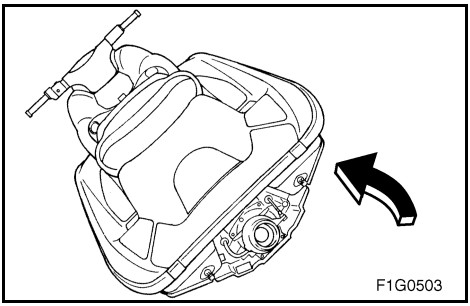
⚠警　告

ジェットインテーク（吸水口）やインペラから異物を取り除く前には必ずエンジンを停止させて、緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを外してください。ジェットポンプの回転部品に触れると重大な事故につながる恐れがあります。

1. 図のようにマリンジェットを横にします。

⚠注　意

- 艇体に傷がつかないように、マリンジェットの下には適当なカーペットなどを敷いてください。
- マリンジェットは必ず左舷側（左側）を下にして回転させてください。
- マリンジェットを横にするときはハンドル等の損傷を防ぐためにガンネルを持ってください。



2. ジェットインテーク、ドライブシャフト、インペラ、ジェットノズルの周囲から海藻やゴミを取り除きます。取り除くことが難しい場合は、ヤマハ取扱店に相談してください。

⚠注　意

海藻が密生している場所での使用は避けてください。どうしても密生箇所を通過する必要がある場合は、スロットルを全開にしたり緩めたり交互に操作してください。速度が一定のときやトローリング速度での航走の方が海藻は付着しやすくなります。海藻がジェットインテークやインペラ部分に詰まった場合は上記の掃除方法に従ってください。

JJU15500

ブースタケーブルの使用

バッテリが電圧低下して使えなくなった場合は 12 ボルトのバッテリとブースタケーブルを使ってエンジンを始動することができます。

警　告

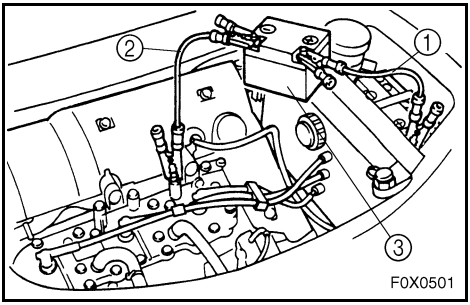
バッテリ取り扱い上のご注意

バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので取り扱いを誤ると爆発し怪我をすることがあります。

- 火気厳禁 = ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。
- 補充電は風通しの良いところで行なってください。
- 落下等の強い衝撃を加えないでください。
- バッテリ液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリ液が皮膚、衣服に付着したときはただちに大量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときはただちに大量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。



JJU15510

ブースタケーブルの接続方法

1. 赤色のブースタケーブル ① を使って両方のバッテリの（+）端子を接続します。
2. 黒色のブースタケーブル ② をブースタバッテリ ③ の（−）端子に接続します。
3. 黒色のブースタケーブルの他端をシリンダヘッドの塗装していないボルトに接続します。

⚠注 意

（−）側ブースタケーブルの他端をマリンジェット側のバッテリの（−）端子には接続しないでください。エンジンを始動する前に全ての接続部が確実に正しく接続されていることを確認してください。接続を間違えると電気系統部品の故障の原因となります。

4. エンジンを始動した後は逆の手順でブースタケーブルを取り外します。

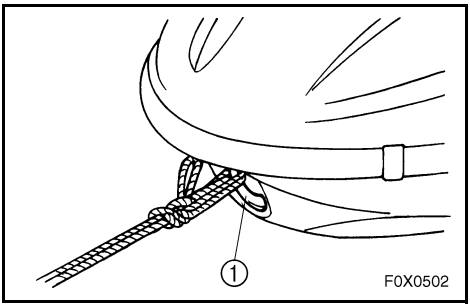
⚠注 意

- エンジン運転中はエンジン始動スイッチを絶対に押さないでください。
- スタータモータは連続して 5 秒以上回さないでください。バッテリが上がり、エンジンが始動できなくなる恐れがあります。また、スタータモータ損傷の要因ともなります。5 秒でエンジンが始動しないときは、15 秒待ってから再始動してください。

JJU19490

マリンジェットの曳航

自力での航行ができなくなったときの緊急時には、マリンジェットを岸まで曳航してください。その場合、エンジンルームに水が入らないように船首は必ず水面より上に出るようにしてください。曳航されるマリンジェットには操船者が乗り、ハンドルを握ってバランスをとってください。



注　意

- 曳航は 8 km/h 以下で行なってください。曳航速度が速すぎると排気通路から水がエンジン内部に浸入したり、吸気口から入った水がエンジンルームを浸水させる恐れがあります。
- 曳航には必ず船首のバウアイ ① を使用してください。
- 曳航中は船首を必ず水面より上に出し、エンジンルームへの浸水を防止します。

警　告

- マリンジェットの曳航は緊急時のみに限り行なってください。
- 曳航ロープは曳航する船舶が減速したときにマリンジェットが追突しないように十分に長いものを使用してください。目安としては、曳航する船舶とマリンジェットの船の長さを合せた 3 倍以上の曳航ロープを使用します。
- 曳航する船舶の操船者は速度を最低限に保ち曳航されているマリンジェットにとって危険となる周囲の船舶や障害物等を回避します。

JJU17740

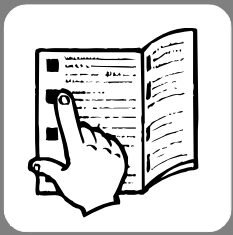
水没時の処置

マリンジェットが水没した場合は、次の手順に従って応急処置を施し、できるだけ速やかにヤマハ取扱店にて整備を受けてください。そのまま放置しておくと重大なエンジン故障の原因となります。

応急処置：

1. マリンジェットを岸に引き上げ、船尾のドレンプラグを取り外して排水します。ドレンプラグの正しい使い方については 3-9 ページの「ビルジ」を参照ください。
   各物入れに溜った水は、底に有る栓を外して排水します。
2. ドレンプラグを元のように取り付けます。
3. できるだけ速やかにヤマハ取扱店で整備を受けてください。

－メモ－



JJU15540

附録

索引 6-1

6

JJU15550

索引

ア
浅瀬からの出航と乗船 3-23
アワーメータ／ボルトメータ 2-17
イ
一般的に使用するマリンジェットの
航行区域 1-14
いつまでもきれいな海で乗るために . . . 1-17
ウ
運搬 3-35
エ
エンジンオイル 3-4
エンジンオイルの給油 3-5
エンジン始動スイッチ 2-8
エンジン停止スイッチ 2-7
エンジンの始動 3-18
エンジンの停止 3-20
エンジン番号 1-1
エンジンルーム 3-7
オ
オイル残量警告 2-18
オイルタンク 4-11
オイルタンクキャップ 2-6
オイルフィルタ 4-11
オイルポンプのエア抜き 4-20
オーバヒート警告 2-19
オーバヒート警告装置 2-12
カ
カールコード 3-13
海岸に着岸するときには 3-32
ガソリンの給油 3-3
環境、周辺の人々との調和のために . . . 1-16
キ
緊急エンジン停止スイッチ 2-7
緊急時の対応方法 5-3
ク
クイック・シフト・トリム・システム
(QSTS) 3-12, 2-10
グリスポイント 4-15
グローブボックス 2-21
ケ
警告ラベル 1-3
コ
航走について 1-7
ご自身と同乗者、他の船舶、
遊泳者等に関する安全情報 1-6
故障診断表 5-1
サ
桟橋からの出航 3-23
桟橋に接岸するときには 3-32
シ
シート 2-5
ジェットインテーク（吸水口）と
インペラの掃除 5-3
ジェットユニット 3-13
周辺の人々のために 1-16
重要なラベル 1-2
出航 3-23
潤滑 4-3
使用後のお手入れ 3-33
仕様諸元 4-22
使用する燃料とオイル 3-1
使用の前に 3-21
使用前点検チェックポイント 3-7
使用前の点検 3-6
使用前の点検チェックリスト 3-6
ス
スイッチ類 3-14
水没時の処置 5-8
ステアリング 2-9, 3-11
ステアリング切れ角の点検 4-12
スパークプラグの清掃と調整 4-13
スピードメータ 2-16
スロットル 3-11
スロットルケーブルの点検と調整 4-12
スロットルレバー 2-7
セ
製造番号の記録 1-1
船首アップ 2-11
船首ダウン 2-11
船首物入れ 2-20
船舶検査 1-12
ソ
操作方法 3-16
掃除 4-6
操船について 1-8

操船の前に 3-21
その他のラベル 1-5
タ
タコメータ 2-16
他の注意事項について..... 1-10
チ
チェックエンジン警告..... 2-18
テ
定期点検表 4-9
停船するときには..... 3-31
艇体 3-7
艇体各部の操作と機能..... 2-5
艇体各部の名称 2-1
艇体識別番号 1-1
艇体番号 1-1
点検整備と調整 4-7
転覆したときには..... 3-27
ト
同乗者との乗船 3-22
同乗者と乗り込む場合..... 3-25
トラブルシューティング
（故障診断）..... 5-1
取扱説明書と工具セット..... 4-8
ドレンプラグ 3-9
トローリング回転数
（エンジン最低回転数）..... 4-19
ナ
波が荒いところでの操船..... 3-32
慣らし運転 3-16
ネ
燃料 3-1
燃料計 2-17
燃料系統 4-3
燃料系統の点検 4-10
燃料残量警告 2-18
燃料タンク 4-11
燃料タンクキャップ..... 2-6
燃料噴射装置の調整..... 4-19
燃料・オイル系統..... 3-8
ハ
排気温度警告 2-19
排気温度警告装置..... 2-13
バッテリ 3-10, 4-5
バッテリの点検 4-17
ハンドグリップ 2-11
ヒ
1人で乗り込む場合 3-24
ヒューズの交換..... 4-20
ビルジ（あか水）..... 3-9
フ
ブースタケーブルの使用 5-5
ブースタケーブルの接続方法 5-6
フード..... 2-6
深いところでの乗船と出航 3-24
分離給油システムの点検 4-11
ホ
法定安全備品..... 1-13
ボートの安全規則..... 1-12
保管の手順..... 4-1
母船に搭載して使用する
マリンジェットの航行区域 1-15
マ
マリンジェットから離れるとき 3-20
マリンジェットの曳航..... 5-7
マリンジェットの航行区域 1-14
マリンジェットの使用について 1-6
マリンジェットの旋回..... 3-28
マリンジェットの操船..... 3-21
マリンジェットの特性について 1-10
マルチファンクションメータ ... 2-15, 3-15
ミ
水分離器..... 3-8
モ
物入れ..... 2-20
ヤ
ヤマハ・アジャスタブル・スポンソン
（YAS）..... 2-21
ヤマハ・アジャスタブル・スポンソン
（YAS）の調整..... 4-21
ヤマハ・エンジン・マネージメント・
システム（YEMS）..... 2-15
ヤマハ・パワー・バルブ・システム
（YPVS）の点検..... 4-14
ラ
ラベルの位置..... 1-2
レ
冷却系統の洗浄..... 4-1
冷却水点検孔..... 2-8, 3-15

JJU16043

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は「ご購入店」または、下記ヤマハサービスセンターにお問い合わせください。

ご購入店

ヤマハ発動機販売（株）サービスセンター一覧　　**平成 15 年 11 月 1 日現在**

拠　点	電話番号	郵便番号	住　所
北海道サービス課	011-612-3120	063-0801	北海道札幌市西区二十四軒一条7－3－13
東北サービス課	022-235-1031	983-0035	宮城県仙台市宮城野区日の出町3－8－36
マリンサービスセンター東日本	045-775-2450	236-0007	神奈川県横浜市金沢区白帆4－4
マリンサービスセンター中部	0533-76-4560	441-0314	愛知県宝飯郡御津町御幸浜1－1－21 出光三河御津マリーナ内
西日本マリンサービス課 関西グループ	078-806-7322	657-0841	兵庫県神戸市灘区南通1-1-6
西日本マリンサービス課 中四国グループ	082-234-5551	733-0036	広島県広島市西区観音新町4－2874－86 観音マリーナ内
九州サービス課	092-885-6523	819-0001	福岡県福岡市西区小戸2－11－1 西福岡マリーナ内

ヤマハ発動機（株）お客様相談室

〒438－8501　静岡県磐田市新貝2500

フリーダイヤル 0120－090－819
携帯電話等、フリーダイヤルがご利用できない場合は、0538－32－1166をご利用下さい。

オープン時間　月曜～金曜（除く祝祭日）　9：00～12：00　13：00～17：00

JJU16050

不　許　複　製

名　　称：マリンジェットGP1300R
取扱説明書
部品番号：F1G-28199-01
発　　行：ヤマハ発動機株式会社

HM03D073	CRMK-0.3-1

平成 15 年 11 月

ヤマハ発動機株式会社

Printed in Japan
Nov. 2003—0.3 × 1 CR
F1G-28199-01
(J)

再生紙を使用しています。